

社会教育拠点施設基本構想

令和 7 年 3 月

— 目 次 —

1. はじめに

1.1 背景（これまで～現在の公民館の状況）	1
1.2 社会教育の変化（過去の社会教育と現在求められている社会教育の現状）	1
1.3 現在の社会教育施設（公民館）の配置や機能（立地と事業内容の解説）	5
1.4 現在の社会教育施設（公民館）の課題	8

2. 社会教育拠点施設基本構想の目的（老朽化問題～これからの求め）

2.1 社会教育拠点施設基本構想の目的 （老朽化でリニューアルが求められている、社会教育・地域コミュニティづくりを整理）	1 1
2.2 社会教育拠点施設基本構想の位置づけ（基本構想の位置づけを定義）	1 2
2.3 社会教育拠点施設基本構想策定委員会の体制と検討プロセス	1 4

3. 社会教育に関する住民の課題や意向（アンケート・ヒアリング）

3.1 アンケートのまとめ（住民アンケートの結果）	1 7
3.2 住民ヒアリングのまとめ（住民ヒアリングの結果）	2 3
3.3 公民館長、公民館職員、社会教育委員、公民館運営審議会委員等との 意見交換の概要（話し合いの経過）	3 2
3.4 現状を踏まえた課題のまとめ （アンケート、ヒアリング、関係者からの声を根拠にまとめる）	4 8

4. 事例調査（視察の概要）

4.1 視察の概要と示唆（視察の結果）	5 1
---------------------------	-----

5. 拠点設置の基本的な考え方

5.1 基本方針（コンセプト）	5 6
-----------------------	-----

5.2 基本理念	5 7
5.3 社会教育拠点施設（公民館・分館）とコミュニティ施設（サテライト拠点）の 考え方とこれからの社会教育に求められる形のイメージ	5 8
5.4 拠点設置方針（新規・既存 具体的なエリア 短期中期長期）	5 8
5.5 活動団体と具体的な活動拠点の役割、施設ごとの役割分担	6 3
5.6 施設運営、人材面の計画（プログラムを促進する職員育成・スキルアップ等）	6 4

6. 拠点施設の利用イメージ

6.1 各ターゲット層のストーリー	6 7
-------------------------	-----

7. 今後の進め方と留意点

7.1 今後の進め方と留意点	6 8
----------------------	-----

1. はじめに

1.1 背景（これまで～現在の公民館の状況）

公民館は社会教育の砦として、様々な活動の実践を行う拠点としての機能を担っています。大山町は平成 17 年に合併を行いました。平成 20 年の大山町教育審議会では公民館のあり方について次の通り答申を出しています。（１）教育施設としての公民館、（２）適正な施設数として合併当初の現状維持、（３）職員体制は３人体制（分館は２人）の維持。それから 16 年が経過し、大山町でも少子高齢化、人口減少が進む中、住民ニーズも多様化してきており公民館では、社会状況に起因する課題への対応が求められるようになってきました。また、その間コロナ対応も迫られる状況もありました。公民館利用者の固定化や現在の体制では対応できない状況も課題として出てきています。

1.2 社会教育の変化 （過去の社会教育と現在求められている社会教育の現状）

社会教育とは「学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーション活動を含む）」と定められており、幅広い解釈のもとに様々な実践され、時代とともに内容が変遷してきました。¹

1.2.1 過去の社会教育・公民館

過去の社会教育や公民館は、「１ 教養の向上」と「２ 地域共同体の強化」という二つの役割を担っていました。

¹ 文部科学省より

1 教養の向上

戦後から高度経済成長期まで、社会教育は教養の向上が中心でした。成人の再教育や公民館を活動の場所として、体験し実感できる活動が実践されました。あわせて、戦後の地域復興のため、産業振興（新分野の開拓・交換分合・新しい技術導入・品種改良・副業指導）の原動力として重要な役割を果たしてきました。

2 地域共同体の強化

公民館は民主的社会教育機関として、地域社会の協力や共通の価値観を育てるための地域活動が進められていました。役割は、親睦交友を深める、産業振興の原動力、民主主義の訓練の場、文化交流の場、郷土振興の機関などでした。²

1.2.2 社会教育を取り巻く環境の変化と課題

社会教育を取り巻く環境の変化と課題は、「1 少子高齢化と人口減少による社会教育への影響と課題」、「2 グローバル化と在留外国人・訪日外国人の増加による社会教育への影響と課題」と「3 地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化」の三つが挙げられます。

1 少子高齢化と人口減少による社会教育への影響と課題

- ・社会教育の利用者の高齢化と減少
- ・長寿化に伴う国民が社会変動の影響を受ける期間の長期化に対応した学び直しの機会の提供の必要性
- ・社会教育主事など社会教育に携わる人材の高齢化と人材確保の困難
- ・小学校区を単位として整備が図られた公民館の地域コミュニティ機能維持への貢献の必要性
- ・人口減少局面では、交流人口の拡大が地域の活力の維持・向上において重要となることから社会教育施設の交流人口拡大への寄与の必要性
- ・高齢者の社会参加の促進と多世代交流による地域づくりの必要性

² 小和田武紀「公民館図説」（1954 年）より

2 グローバル化と在留外国人・訪日外国人の増加による社会教育への影響と課題

・国籍や民族などの異なる人々が地域社会の構成員として共に生きていく多文化共生の推進に向けた社会教育の貢献

3 地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化

・地域の人々との付き合いが疎遠になったことから、地域コミュニティが衰退しており、高齢者や困難を抱えた親子などが地域で孤立する状況が生じています。また、家庭や家族が多様化し、三世代世帯が減少する一方で、ひとり親家庭など地域行事等への参加が少ない人々が増加していることも地域コミュニティの衰退に拍車をかけているという指摘もあります。³

1.2.3 現在の社会教育の役割

過去には、二つの役割が期待されていましたが、時代の変化とともに現在の社会教育は、「1 地域住民が集う場の提供」、「2 多様な価値観への対応」、「3 自己主導型の学びである生涯学習を促進する社会教育」の三つの役割が期待されていると考えられます。

1 地域住民が集う場の提供

少子高齢化と人口減少に伴う集落活動の縮小、地域コミュニティの衰退とつながりの希薄化が引き起こす担い手不足に起因する地域課題の解決や地域を支える人材育成のため、公民館が地域コミュニティ形成の拠点としての役割を果たし、誰もが気軽に立ち寄り、情報交換や交流ができるような場の提供と地域の賑わいづくりへ貢献することが求められています。また、社会教育を提供する主体も多様化しています。（学びの成果を活かした地域づくり）

2 多様な価値観への対応

昨今のグローバル化の進展に伴い、在留外国人・訪日外国人の増加による多文化共生、地域共生社会の実現、ジェンダー、環境問題などに対応できる教育が必要です。（高齢者、障がい者、外国人、困難を抱える人々など、住民が孤立せず社会参加をする）

³ 生涯学習・社会教育行政必携より

3 自己主導型の学びである生涯学習を促進する社会教育

価値観が多様化する社会に対応するため、生涯学び続ける姿勢が求められており、学習機会の提供や学び続けるための仕掛けや仕組みが必要です。（長寿化、社会変動の中求められる能力の変化への対応、技術革新、デジタルリテラシー教育、オンラインの活用など）

1.2.4 今後の方向性

現在の社会教育の役割を実現していくために、今後は、「1 官民パートナーシップによる社会教育の推進」と「2 持続可能な社会教育システムの構築」の二つの方向性を持った取り組みを意識して進めていく必要があります。

1 官民パートナーシップによる社会教育の推進

今後は、地域コミュニティの維持・地域の賑わいづくりに貢献していくことが大きな役割となります。地域住民が地域コミュニティの将来像や在り方を住民同士お互いに共有し、その実現のために解決すべき地域課題とその対応について学習し、学習の成果を地域づくりの実践につなげる「学び」を「地域課題解決学習」として捉え、社会教育の概念に明確に位置付け、公民館等（社会教育行政、NPO、大学、地域運営組織など）と民間事業者の持っている様々な分野ごとのノウハウや強みを活かすようなパートナーシップによってその推進を図ることにより、住民の主体的参画による持続可能な地域づくりに貢献することが求められます。

2 持続可能な社会教育システムの構築

官民パートナーシップによる社会教育の推進していくためには、持続可能な社会教育システムの構築が必要となります。具体的には、以下の体制構築の視点が求められています。

- ・社会教育行政のネットワーク化

 - 教育委員会と首長部局の連携

 - 学校の連携・協働の推進（社会に開かれた教育課程、地域とともにある学校、学校を核とする地域づくり、コミュニティ・スクール）

 - NPO、大学、地域運営組織、企業等との連携

 - 社会教育委員、公民館運営審議会委員の積極的な活用

- ・「学びのオーガナイザー⁴」としての社会教育主事、社会教育士の養成と活用
今後の社会教育主事、社会教育士に求められる資質・能力とその養成
- ・新しい「学びの場」と社会環境の変化に対応した社会教育施設の運営・整備
公民館、交流センター、コミュニティセンター、図書館等
- ・住民、社会の理解と支持が得られる社会教育行政の展開と国民の参画促進
ふるさと納税制度やクラウドファンディングなど多様な資金調達方法も視野に入れ、教育投資の促進を図ることが重要。そのための理解と支持が得られるような計画作りが必要（成果目標・PDCA・
不断の改善など）。⁵

1.3 現在の社会教育施設（公民館）の配置や 機能（立地と事業内容の解説）

大山町は中山、名和、大山の三つの旧町エリアにひとつずつ町営の公民館を構えており、加えて大山エリアには大山公民館の分館が2つあります。主に昭和40年代後半から50年代の開設から、地域住民への社会教育の拠点、コミュニティ活動の場として機能し、様々な人材や地域の特性に合った地域活動を行い、それぞれに文化を醸成してきました。

1 中山公民館

住所	鳥取県西伯郡大山町塩津368		竣工日	昭和49年3月竣工、4月開館		
施設概要	鉄筋コンクリート2階建		建物面積	1,009㎡	敷地面積	4,284㎡
施設内容	1階部分	町民ホール・第1研修室（和室）・第2研修室・調理実習室・浴室・宿直室				
	2階部分	大会議室・小会議室・第3研修室・図書室兼資料室				
事業内容	(1) 地域自主組織（上中山地区・下中山地区・逢坂地区）との連絡調整を密にし、協働・連携・役割分担しながら、住民活動の支援に努める。					
	(2) 生涯各期の学習機会の拡充と講座等の学習内容の充実を図る。					
	(3) 子どもの健全育成に資する活動を、体験活動を中心に充実を図る。					
	(4) 地域の各種サークル・同好会等の育成に努める。					
	(5) 芸術文化の振興と伝統芸能の継承・育成に努める。					

⁴ 学びのオーガナイザー：地域課題を解決する学習を支援するうえで関係施策の企画・立案や事業の推進に向けて、住民やNPOなど多様な主体間のコーディネートを行い、組織を作り出す役割を指す。

⁵ 出典：人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育に関する現状（文部科学省）より・生涯学習・社会教育行政必携より

2 名和公民館

住所	鳥取県西伯郡大山町御来屋263-1		竣工日	昭和54年6月竣工、9月開館	
施設概要	鉄筋コンクリート2階建		建物面積	1,276㎡	敷地面積3,979㎡
施設内容	1階部分	講堂・ホール・第3会議室・図書館			
	2階部分	第1会議室・視聴覚室・展示室・青年研修室			
事業内容	(1) 気軽に集える公民館				
	① 公民館が、地域住民の憩いの場、集い交流の場となるよう環境整備を行うと共に、笑顔で親切な対応を心がける。(フリースペース(ロビーなど)の活用、職員のコミュニケーション力の向上、相談機能の充実向上)				
	② 空き部屋を自習室として開放することを通して、住民の居場所づくりと小・中・高生の公民館利用促進を図る。(小中高生を公民館へ)				
	③ 図書館併設という利点を活かし、本との出会いを促進すると共に、公民館活動への参加を促していく。(図書館と公民館の連携事業)				
	(2) 「学ぶ活動」が「活かす・広げる活動」につながる公民館				
	① 公民館のサークル活動や、公民館の事業に参加して得た知識、成果の発表の場や、ネットワークづくりなど、学習の成果を地域に活かし広げる取り組みを進める。(公民館まつり、町総合文化祭)				
	② 学びの発信と交流の場として展示室の活用を図る。またロビー展示を積極的に行う。(サークル作品展示、ロビー展示)				
	(3) 地域と共に歩む公民館				
	① 大山の恵み、地域の歴史、文化、人、ものを活かした事業に取り組み、暮らしている地域への理解を深め、地域に誇りをもてる事業を積極的に取り入れていく。(大山アカデミー(成人講座)、ことぶき学級、町文化祭、公民館まつり、展示)				
	② 地域課題を把握し、地域自主組織等と連携、協働した活動を推進する。(公民館まつり、中高生対象事業の実施)				

3 大山公民館

住所	鳥取県西伯郡大山町末長269-1		竣工日	昭和51年10月竣工	
施設概要	鉄筋コンクリート2階建		建物面積	1,021㎡	敷地面積5,496㎡
施設内容	1階部分	講堂・ホール・事務室・図書館・和室			
	2階部分	第1会議室・第2会議室・第4研修室・自習室			
事業内容	(1) 大山公民館・分館が一体となり、生涯にわたって主体的に学習や活動を行う「集う・学ぶ・人づくり」場所の提供に取り組む。				
	(2) 学びと活力のある豊かな活動の場として、地域に密着した公民館活動を展開する。				
	(3) サークル活動の活性化を図り、新サークル立ち上げ支援に取り組む。				
	(4) 公民館と図書館が連携し、乳幼児から高齢者まで、本との出会いの場をつくる。				
	(5) 大山公民館と各分館は地域の課題を把握し、それぞれの地域自主組織などとの連携により、各地域の特色を活かした学習の提供や事業に取り組む。				
	(6) 地域住民が安心して集える場を提供するため、公民館施設・設備の充実に努める。				
	(7) 公民館職員の資質向上を図るため、積極的に研修活動に参加し、情報の収集に努めると共に、明るく親切な対応に心がける。				

4 大山公民館高麗分館 こうれいコミュニティセンター

住所	鳥取県西伯郡大山町妻木582-1		竣工日	昭和58年3月竣工、4月開館		
施設概要	鉄筋コンクリート2階建		建物面積	422.4㎡	敷地面積	1,053㎡
施設内容	1階部分	研修室・調理実習室・事務室・ホール				
	2階部分	会議室・ホール				
事業内容	(1) 公民館サークル活動・学習活動の支援 スポーツ、趣味等公民館サークルに活動場所及び活動成果の発表場所を提供するなどして支援します。また、分館図書の整理、充実を図り、閲覧を奨励し学習の場を提供します。					
	(2) ふれあいによる仲間づくりと体力・健康づくりの支援 年代に応じた各種スポーツ大会を開催して、体力・健康づくりを支援します。また、地域のみんなが参加できる運動会を実施します。					
	(3) 子どもの活動支援 チビッ子夏祭り等、小学生、未就学児童を対象とした事業を開催し、子どもたちの思い出づくり、仲間づくりを支援します。					
	(4) 地域のまちづくり支援 集落支援員を中心として、地域自主組織との連携を図り、地域が持つ課題の把握と解決を支援します。					
	(5) 集落相互の連携強化等に向けた支援 集落相互の連携、世代間の絆の深まりなどふるさと意識が高揚するよう、コミュニティーセンター主催事業を通じて支援します。					

5 大山公民館大山分館 大山農村環境改善センター

住所	鳥取県西伯郡大山町今在家611		竣工日	昭和58年6月竣工	
施設概要	鉄筋コンクリート平屋建		建物面積	801㎡	敷地面積
施設内容	1階部分	集会室・事務室・ロビー・談話室・婦人研修室・研修室・農事相談室・農事実習室・農産加工室			
事業内容	(目標)				
	(1) 地域自主組織「まちづくり大山」と協力し、大山地区の地域づくりに取り組みます (2) 大山分館並びに大山農村環境改善センターが大山地区の「集う・学ぶ・健康・楽しい」場になるよう取り組みます (重点施策) (1) 地域自主組織「まちづくり大山」や地区内の団体との連携を強め、住民が「集い・楽しい」場づくりに取り組みます。 (2) 自然・歴史・人の良さを掘り起こし、地域の良さを「学ぶ」取り組みを進めます。 (3) 各種スポーツ大会・健康講座・サークル活動を通じて「健康づくり」に取り組みます。 (4) 地域住民に「親しまれる公民館」を目指し、職員の力量向上に努めます。 (5) 利用して良かったと言っていただける施設になるよう努めます。				

1.4 現在の社会教育施設（公民館）の課題

現在の公民館は、老朽化が進み建物の維持更新をどのようにするか検討する必要があります。あわせて、他の公共施設等との機能の分担のあいまいさ、立地や予算面など地域間で差があり課題感を抱えています。また、公民館利用者は、これまでの利用者である方々の高齢化に加え、現在の利用者は固定化しており、将来的に減少していくことも予測されます。

1 老朽化問題

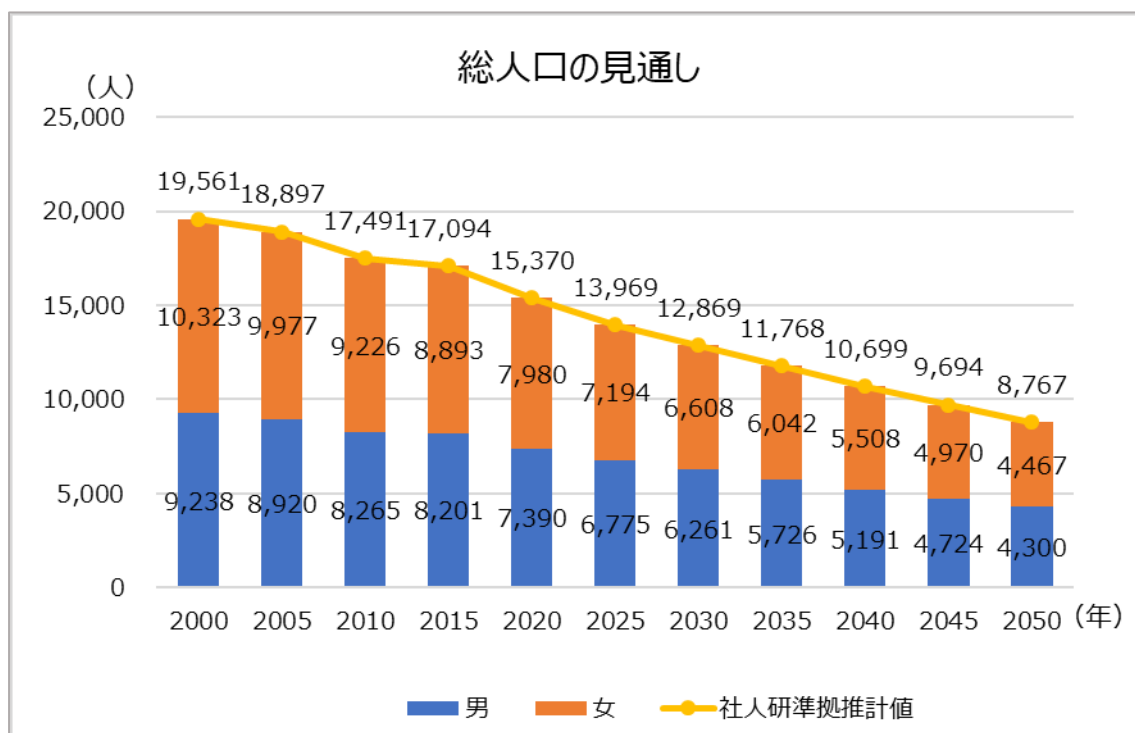
町内公民館は、古いもので、開館から 51 年経過している中山公民館、48 年経過している大山公民館、45 年経過している名和公民館と施設の維持更新をどのようにしていくか計画する必要があります。特に更新時には、大山町公共施設等総合管理計画や大山町公共施設再配置計画、大山町公共施設長寿命化計画に基づき、継続、他の公共施設との集約化、複合化、転用、廃止を検討します。あわせて長寿命化の可能性や民間活力の導入を進め、効率的な管理運営を進めていく必要があります。

2 公民館以外の公共施設との機能分担問題

社会教育拠点施設基本構想の方向性によっては、様々な分野の行政サービスを展開する役場機能の位置づけや公共施設全体の配置にも関係性が出てくる可能性もあります。今後については、公共施設全体のあり方の方向性を定める必要があります。

3 少子高齢化等の人口動態に合わせた規模の適正さ

少子高齢化と人口減少の中、人口動態と将来の住民ニーズを把握し、公共施設等の規模の適正化を進めていく必要があります。例えば、2050 年の町内人口規模に合わせた施設の再編や集約といった多面的な仕組みを検討しておくなど、将来の課題に備えておく必要性があります。



※大山町人口動向分析及び将来人口推計 令和 6（2024）年 3 月

4 限られた利用者

現在、公民館をメインで使っている団体はサークル活動です。サークルで活動している会員の方々の高齢化が進み、今後のサークル活動の規模は縮小の見込みです。その他、町内では小規模で活動している個人の団体はありますが、そういった方は公民館にサークル活動登録はされない現状もあります。また、公民館が主体的に講座や研修会等を実施していますが、利用者は固定化しています。

【 公民館利用者総数⁶ 】

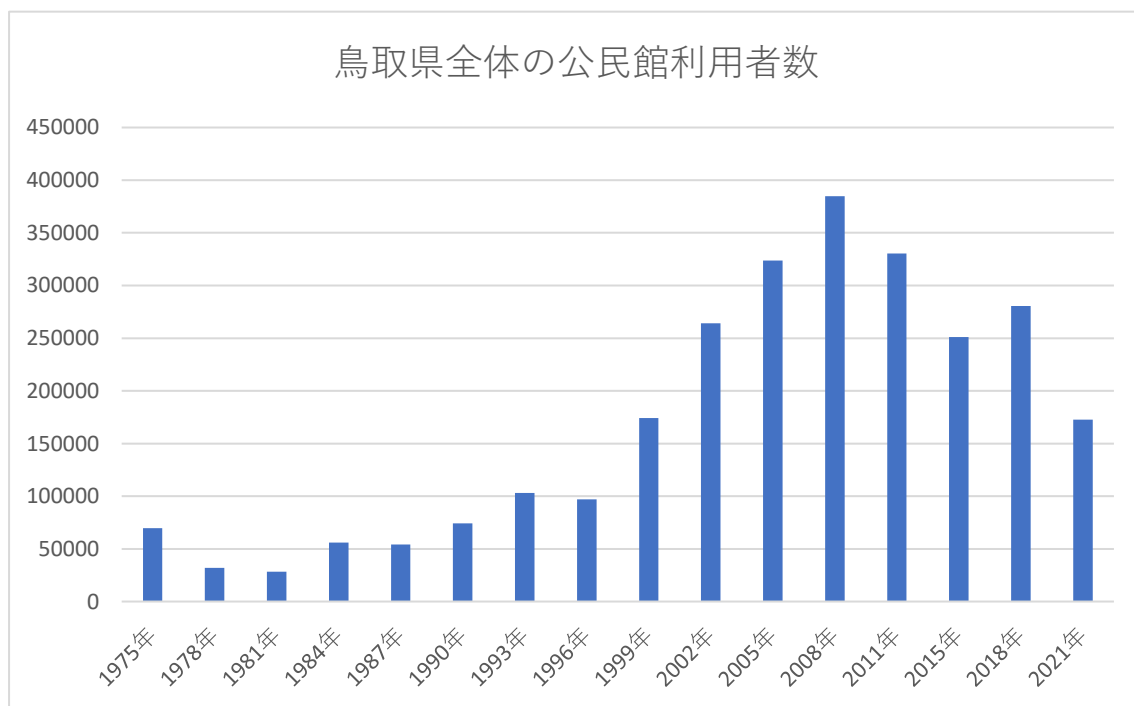
項目	単位	平成20年度	平成23年度	平成27年度	令和 3 年度	令和6年度
公民館利用者総数	人	35,952	40,027	36,692	28,140	32,072
増減率	%		11.3%	-8.3%	-23.3%	14.0%

⁶ 文部科学省 社会教育調査より

【 各公民館の利用者数⁷ 】

公民館利用者	単位	平成20年度	平成23年度	平成27年度	令和 3 年度	令和6年度
高麗分館	人	4,211	3,720	2,432	3,671	3,203
増減率	%		-11.7%	-34.6%	50.9%	-12.7%
大山公民館	人	6,195	8,358	8,422	6,800	6,049
増減率	%		34.9%	0.8%	-19.3%	-11.0%
中山公民館	人	8,437	8,660	6,205	5,814	6,961
増減率	%		2.6%	-28.3%	-6.3%	19.7%
大山分館	人	5,218	9,448	9,612	5,532	7,467
増減率	%		81.1%	1.7%	-42.4%	35.0%
名和公民館	人	11,891	9,841	10,021	6,323	8,392
増減率	%		-17.2%	1.8%	-36.9%	32.7%

【 鳥取県全体の公民館利用者数の推移⁸ 】



⁷ 文部科学省 社会教育調査 2021 年（R3 年）はコロナの影響により減少

⁸ 文部科学省 社会教育調査

2. 社会教育拠点施設基本構想の目的 (老朽化問題～これからの求め)

2.1 社会教育拠点施設基本構想の目的

(老朽化でリニューアルが求められている、社会教育・地域コミュニティづくりを整理)

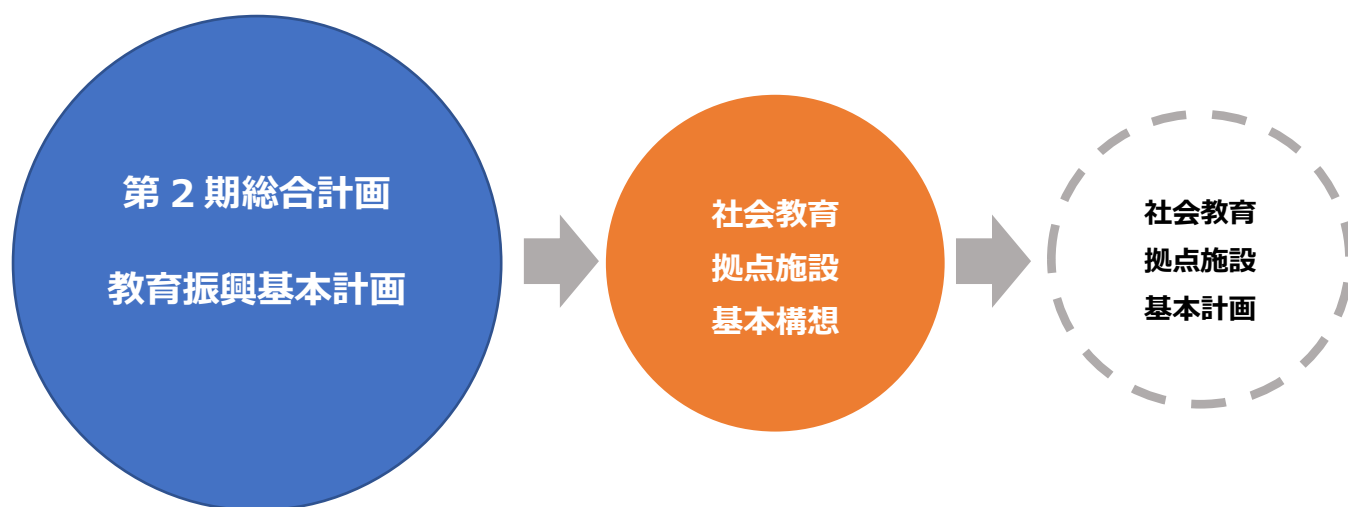
既存の公民館施設の老朽化という状況を契機に大山町における社会教育のあり方を検討することになりました。新しい社会教育の実現のためには、社会教育施設に、住民が集う場の機能や、多様な価値観への対応、自己主導型の学びである生涯学習を促進する社会教育を行う役割が求められています。町の主要な計画（大山町未来づくり 10 年プラン・大山町教育振興基本計画）と町民の意向や考え方を基に、社会教育拠点施設基本構想策定委員会を設置し、各分野の様々な関係者での総合的な検討を通し、大山町の今後 50 年の社会教育拠点施設に求められる機能や役割のあり方を明らかにし、それらを踏まえた社会教育拠点施設整備（リニューアル）における方向性を示します。

次のステップとなる社会教育拠点施設基本計画では、具体的なエリアや、施設の持つ機能や設備、建設費用、整備方法等（新築・改修・合築など）、また、どのように運営していくのかなどを決めていきます。

2.2 社会教育拠点施設基本構想の位置づけ

(基本構想の位置づけを定義)

大山町では、平成 28 年（2016 年）に第 2 期総合計画（大山町未来づくり 10 年プラン）を策定し、令和 7 年（2025 年）までの 10 年間の期間で各施策を実施しています。また、教育委員会では、令和 2 年（2020 年）に大山町教育振興基本計画を策定し、令和 6 年（2024 年）までの 5 年間の期間で教育に関わる各施策を実施しています。社会教育拠点施設基本構想では、この二つの計画を基軸に、施設設置方針、公民館の活動方針、また、他施設との役割分担等について示し、次の社会教育拠点施設基本計画に向けた検討のベースをまとめるものです。



～以下、公民館に関係する部分の抜粋～

1 大山町未来づくり 10 年プラン（総合計画）（2016 年—2025 年）

基本計画の「第 1 章 教育・文化」、「第 1 節 大山町に誇りを持つ学びを生み出すために」、
「07 いくつになっても学び続け行動しよう」では、「いくつになっても学びの好奇心を持ち続けている人。趣味や余暇活動など自ら楽しい活動を生み出している人。自分も楽しくて地域のためにもなるコミュニティ活動やボランティア活動に取り組んでいる人。そんな人たちがたくさんいて、交流しながらお互いの活動を高め合っている。そして、その活動をサポートする環境が整っている。」

また、「08 公民館や図書館をもっと活用しよう」では、「いくつになっても学びであることは、暮らしの楽しみであり、喜びです。大山町に暮らす一人ひとりに「学びたい！」という気持ちを持ってもらいたい。そしてその気持ちを具体的な行動につなげるための拠点が、図書館や公民館です。図書館や公民館にさまざまな人が集い、交流しながら新たな学びを生み出す活動が広がっています。」

上記のような、大山町の理想が盛り込まれています。

2 大山町教育振興基本計画（2020 年—2024 年）

「第 1 章 基本構想」、「3 節 大山町が目指す教育の姿」の（1）基本理念には、「大山の恵みを受けて 生き生き輝く 人づくり」、（2）基本目標【社会教育】「生涯にわたって、生き生きと学んだりスポーツに親しんだりしながら、豊かにつながる人づくりを進めます。」という方針があります。

また、社会教育においては、「第 2 章 基本計画」の「3 節 社会教育の充実」に「（1）公民館と「地域自主組織」の連携・協力したコミュニティ活動の推進」、「（2）生涯学習環境の充実」として、具体的取組が盛り込まれています。

3 社会教育計画（毎年作成）

公民館は、公民館運営審議会の委員の協議にて作成される大山町社会教育計画に基づき各公民館が事業を行っています。

（1）大山町公民館経営方針の基本方針

「社会教育・地域づくりの拠点として、住民の多様な学習要求に応える事業を展開しながら、地域住民との連帯意識を深め、人と人がつながり、心豊かで賑わいのあるまちづくりに寄与し、地域住民に頼られる公民館を目指します。

私たちを取り巻く社会の急速な多様化、高度化に伴う諸課題に対応しうる社会教育活動を展

開します。

講座、教養学習、青少年育成、創作活動、人権学習、健康・スポーツ活動、レクリエーション活動を柱として、保育所、小・中学校、各種教育機関並びに地域自主組織や社会教育関係団体等と連携し、地域の歴史、文化、自然、産業などへの理解を深めながら、住民の活力が結集した地域力の向上と豊かな人間性の育成に取り組みます。」

（２）公民館の重点目標

- ① 社会教育の拠点として、町民の生涯学習を支援するとともに、各地域住民の自主的な活動や地域自主組織との連携・協力により、地域コミュニティ活動の拠点としての役割を担う「公民館」とする。
- ② 公民館施設の老朽化に際し、設置エリアや施設の規模をはじめとした社会教育拠点施設の在り方について検討を進める。

（３）公民館の重点施策

- ① これからの地域を担う世代の活躍と施設利活用を促すような取り組みを推進する。
- ② 社会教育拠点施設整備基本構想策定委員会を運営し、地域自主組織との連携や公民館関係者と町民全体の参画を得て、これからの社会教育拠点施設の在り方を検討していく。

2.3 社会教育拠点施設基本構想策定委員会の 体制と検討プロセス

社会教育拠点施設基本構想策定委員会（以下、基本構想策定委員会という）は、外部専門家、社会教育委員、公民館運営審議会委員、地域自主組織集落支援員、小中 PTA 連絡協議会、一般公募など 15 名から構成し検討を進めました。

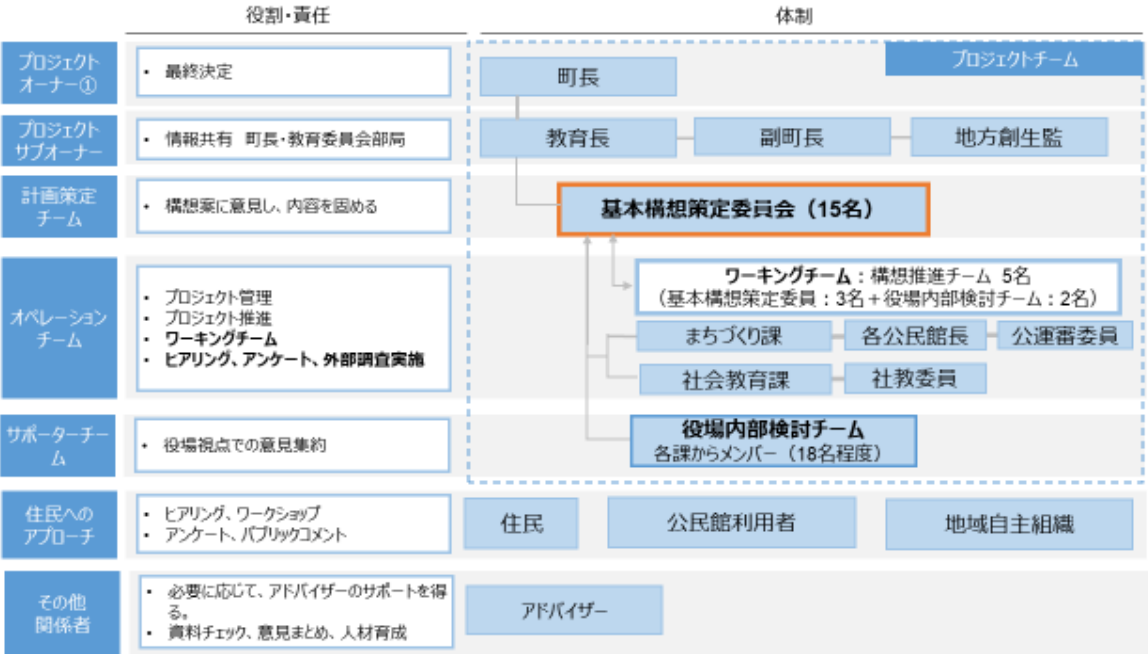
これまでの計画策定等の検討では、町の担当者が情報をまとめ、資料にし、会議に諮り、修正を受け、再度会議に諮り、内容を調整していく進め方を進めていたため、検討の素案に多角的な視点が盛り込まれない資料となることが課題でした。そのため、今回は住民で構成される基本構想策定委員会のメンバー 14 名のうち 3 名と大山町役場内検討チーム 18 名のうち 2 名の合計 5 名で構成するワーキングチームを組成し、基本構想策定担当者と協働して検討を行いました。

ワーキングチームの役割は、基本構想策定委員会で検討する事項等について事前に打ち合わせを行い、検討する案をまとめ、検討すべき内容をより充実させることです。これにより、検討内容に厚

みが出て基本構想策定委員会の議論が深まります。

検討の基本的な流れは、①担当者によるアドバイザーを含めた事前打ち合わせ→②ワーキングチームメンバーとアドバイザーによる打ち合わせ→③基本構想策定委員会 の順で 2024 年 3 月から 12 月まで検討が行われました。また、関係機関や役場内部検討チーム、住民ヒアリング・フィードバックなど、情報提供は広く積極的に行い、丁寧なプロセスを踏み、進めていきました。

【検討体制】



【基本構想策定委員会 委員構成 (15名)】

	属性	役割・責任
①	・ 社会教育委員代表 1名	社会教育的視点からの選出
②	・ 公民館運営審議会委員代表 1名	公民館利用者の視点からの選出
③	・ 地域自主組織集落支援員 3名	地域自主組織の運営者視点からの選出
④	・ 公民館代表 1名	公民館運営者の視点からの選出
⑤	・ 小中PTA代表 1名	将来的に利用をする子どもたちの親の視点からの選出
⑥	・ 大学生、若い社会人 代表 1名	若者視点からの選出
⑦	・ 外部専門家2名	専門的知見からの選出
⑧	・ 一般公募4名	関心のある町民を選出
⑨	・ 役場内部検討チーム 1名	役場内部検討チームからの視点

【検討スケジュール】

2024年	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	第1回 ▼	第2回 ▼		第3回 ▼	第4回 ▼	第5回 ▼	第6回 ▼	第7回 ▼	第8回 ▼	住民 ヒアリング 第9回 ▼
①コンセプト（地域づくりのあり方）										
②拠点設置（既存施設含む）の方針（コンセプト・役割・機能）と具体的なエリア										
③既存活動団体・新規活動団体等の関係性の整理と具体的な活動の拠点										
④人材面の計画										

3. 社会教育に関する住民の課題や意向 (アンケート・ヒアリング)

3.1 アンケートのまとめ（住民アンケートの結果）

公民館の利用の現状や集うことのできる施設（場・拠点）に対する住民の意向を把握するためにアンケートを実施しました。施設に求められるこれからの理想的な姿は、気軽に行けることや設備の充実が挙げられました。交通手段については、小中学生は徒歩か自転車が多く、また、高齢者を含めて多くの方々は10分程度で行ける場所を選択しており、家の近くがいいという声が多数確認できました。公民館の現状については、社会教育のねらいである交流や学びを行う場所という機能は幅広い世代の多くの方々に伝わっています。しかし、大半の住民にとっては、公民館の利用方法がわからない、自分には必要ない、何をするとところかわからないといった理由で、ほとんど使われていないことが見えてきました。

1 アンケートの目的

- ・住民の声やニーズを拾い、本基本構想を策定する上での根拠とするため

2 アンケート設計と概要

対 象 者	どなたでも回答可能
配 布 方 法	集落回覧・小中学校・保育園・公民館・自主組織への配布
回 答 方 法	紙・電子回答
収 集 数	244回答
期 間	1か月（令和6年6月～7月）

3 アンケート分析の方法（クロス分析の切り口）

年齢層、性別、家族構成（未成年者の有無）	×	公民館の利用目的
移動時間・移動手段・利用頻度	×	年齢層・性別
年齢層、性別、家族構成（未成年者の有無）	×	理想的環境
年齢層、性別、家族構成（未成年者の有無）	×	場所
年齢層、性別、家族構成）	×	関心があることや学びたいこと
年齢層	×	休日の過ごし方
年齢層、家族構成	×	使わない人の理由

4 アンケート分析の概要

【年代別の公民館の利用目的】

- ・高齢者の利用は、サークル活動、会議や図書館が多い。
- ・子育て世代の保護者と保育園児の利用は、図書館が多い。
- ・未成年（子ども）の利用は、サークル（講座への参加）、図書館、交流、読書、勉強など様々な回答であった。
- ・利用者目的の主なものは、サークル、図書館、会議、交流が多い。
- ・働き世代の利用は、サークルの講師や会議が多い。

年代別の公民館の利用目的（10%以上着色）

項目	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
サークル	18%	20%	22%	13%	15%	32%	28%	33%
図書館	18%	40%	35%	29%	37%	16%	17%	11%
会議	9%	20%	14%	29%	30%	22%	29%	22%
交流	18%	0%	11%	17%	7%	12%	11%	0%
講座	18%	0%	11%	8%	7%	8%	7%	11%
読書	0%	20%	0%	4%	0%	8%	3%	11%
勉強	18%	0%	5%	0%	0%	2%	1%	11%
時間つぶし	0%	0%	3%	0%	4%	0%	4%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

【年代別の公民館を利用してよかったこと】

- ・利用してよかったことは、どの年代でも交流や学びができることが多い。
- ・若者～50 世代のよかったことは、交流・新たな学び・楽しい・経験・可能性広がる・自習・ビジネス利用などが多い。
- ・60 代以上のよかったことは、交流・新たな学び・経験が多い。

年代別公民館を利用してよかったこと（10%以上着色）

	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
交流ができる	20%	50%	28%	35%	23%	30%	37%	58%
新たな学び	10%	0%	10%	18%	17%	22%	14%	8%
楽しい	10%	25%	10%	15%	9%	10%	7%	17%
新たな経験	15%	0%	14%	12%	11%	6%	9%	0%
可能性が広がる	5%	0%	3%	6%	6%	5%	6%	0%
友達ができる	5%	0%	7%	0%	9%	9%	11%	8%
静かに過ごせる	25%	25%	21%	12%	9%	12%	3%	0%
生きがい	5%	0%	0%	0%	9%	5%	6%	8%
自由	5%	0%	7%	3%	9%	1%	6%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
	20	4	29	34	35	82	95	12

【年代別の公民館への移動時間】

- ・移動時間は、どの年代も 10 分以内が大多数。利用目的があれば 20 分かけてでも移動する。
- ・15 歳未満の移動時間は、10 分～30 分の回答が多く、自転車が推察される。移動手段が限られる。
- ・大人のどの世代も移動手段は、自動車を主に利用されている。
- ・80 歳以上の移動手段は、家族の送り迎えがある回答であった。
- ・公民館利用者のデマンドバスの利用は少なかった。

年代別の公民館への移動時間（10%以上着色）

	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
5分以内	0.0%	83.3%	30.3%	25.0%	59.3%	25.0%	25.0%	22.2%
10分以内	57.1%	16.7%	57.6%	57.1%	29.6%	58.9%	57.1%	61.1%
20分以内	28.6%	0.0%	9.1%	14.3%	7.4%	10.7%	8.9%	11.1%
30分以内	14.3%	0.0%	3.0%	0.0%	3.7%	1.8%	3.6%	0.0%
40分以内	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	0.0%
1時間以上	0.0%	0.0%	0.0%	3.6%	0.0%	1.8%	0.0%	5.6%
1時間以内	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	3.6%	0.0%

【年代別の公民館の利用頻度】

- ・利用頻度は、どの年代もほとんど使わないが多くの回答。特に 20 代から 60 代の働き世代は、ほぼ使わない。
- ・30 代から 80 代の利用者の 1 割程度は、月に 1 回程度利用する。
- ・15 歳未満の利用は、公民館サークルが行っている習い事などで週に 1 回利用が多いと回答。
- ・60 歳以上の 6 割以上は、公民館を利用している。
- ・15 歳未満に含まれる保育園児の利用は、親と一緒に利用する図書館の利用が考えられる。

年代別の公民館の利用頻度（10%以上着色）

	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
ほとんど使わない	0.0%	66.7%	39.4%	46.4%	44.4%	44.6%	25.0%	55.6%
月に1回	0.0%	0.0%	15.2%	10.7%	25.9%	12.5%	12.5%	11.1%
週に1回	42.9%	0.0%	15.2%	3.6%	3.7%	3.6%	21.4%	11.1%
隔週	0.0%	0.0%	12.1%	7.1%	0.0%	14.3%	10.7%	5.6%
3か月に1回	14.3%	0.0%	6.1%	17.9%	3.7%	5.4%	10.7%	5.6%
半年に1回	0.0%	16.7%	3.0%	3.6%	11.1%	10.7%	8.9%	5.6%
1年に1回	28.6%	16.7%	0.0%	7.1%	0.0%	1.8%	1.8%	0.0%
毎日	14.3%	0.0%	3.0%	0.0%	3.7%	1.8%	1.8%	5.6%
週に2回	0.0%	0.0%	6.1%	3.6%	7.4%	5.4%	7.1%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

【年代別の理想的な施設の環境】

- ・理想的な施設の環境は、どの世代でも「気軽に行ける」、「設備が充実している」を重要視している。
- ・若い世代の理想環境は、施設で行われる事業、イベントや素敵な環境を重視する傾向がある。
- ・50 歳以上の理想的な環境は、生活圏と仲間づくりを重要視している。
- ・保育園児のいる家庭の理想的な環境は、気軽に行ける、設備の充実、施設で行われる魅力的な事業に期待がある。

	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
気軽に行ける	19%	14%	27%	32%	25%	30%	28%	33%
設備が充実している	19%	43%	19%	19%	18%	13%	10%	13%
コンテンツが充実している	14%	14%	19%	13%	11%	9%	4%	0%
生活圏にある	0%	7%	7%	7%	12%	11%	18%	13%
仲間づくりができる	10%	0%	5%	4%	10%	10%	15%	17%
素敵な環境	29%	14%	6%	9%	5%	7%	4%	13%
敷居が低い	5%	0%	7%	6%	8%	9%	4%	4%
情報発信が充実している	0%	7%	8%	4%	10%	8%	9%	4%
交通手段が充実	5%	0%	3%	4%	1%	2%	6%	4%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

【年代別の自分が行いたい活動ができる場所】

- ・20 代～80 代の世代の希望は、集会所・家の近くの回答が多い。20 代は集会所の意見がない。
- ・施設の立地に関して旧町エリアがちょうどいいと判断する人は、どの世代でも 1 割程度の回答あり。
- ・若い層の希望は、人が集まる場所や買い物、駅の近くなどの目的が重要と思われる。
- ・15 歳未満の希望は、旧町エリア、駅の近く、学校の近くなど生活圏内の判断とする回答が多い。
- ・保育園児のいる子育て層の希望は、家の近くでの他者との交流を望んでいる。

年代別の自分が行いたい活動ができる場所（10%以上着色）

値	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
集落の集会所	8%	0%	10%	17%	18%	24%	28%	59%
家の近く	8%	38%	29%	24%	18%	21%	12%	6%
旧町エリア	17%	0%	10%	17%	16%	14%	14%	24%
旧小学校区エリア	8%	0%	23%	10%	8%	15%	26%	0%
人の集まるエリア	8%	25%	8%	12%	16%	14%	13%	0%
スーパーの近く	0%	13%	4%	2%	11%	6%	5%	0%
駅の近く	25%	13%	8%	5%	5%	4%	0%	6%
バス停の近く	8%	13%	2%	0%	0%	0%	1%	6%
学校の近く	17%	0%	4%	12%	8%	1%	2%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

【年代別の利用頻度が低い理由】

- ・利用頻度が低い理由は、利用方法がわからない・必要ない・何をするとところかわからないが、どの世代も 2 割程度の回答だった。
- ・50～60 代はの理由は、興味がない・忙しい・土日に関いてない・町外の施設の利用などが 1 割以上の回答。
- ・30 代の理由は、忙しい、土日祝開いていない、敷居を高く感じている回答が 1 割以上だった。
- ・20 代の理由は、年配の人が行くといったイメージとして 3 割程度感じている。

年代別の利用頻度が低い理由（10%以上着色）

	15歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上
利用方法がわからない	0%	33%	0%	25%	20%	15%	20%	0%
必要ない	0%	0%	29%	17%	0%	38%	60%	67%
何をするとところかわからない	0%	0%	14%	8%	20%	0%	20%	0%
興味がない	0%	0%	0%	8%	20%	15%	0%	0%
魅力的な行事がない	0%	33%	0%	8%	10%	0%	0%	33%
忙しい	0%	0%	14%	8%	0%	15%	0%	0%
土日祝に関いてない	0%	0%	14%	8%	20%	0%	0%	0%
敷居が高そう	0%	0%	29%	0%	0%	0%	0%	0%
町外施設を利用する	0%	0%	0%	0%	0%	15%	0%	0%
年配の人の行く場所のイメージ	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
利用したい時間に開いてない	0%	0%	0%	8%	10%	0%	0%	0%
家族で過ごす	0%	0%	0%	8%	0%	0%	0%	0%
その他	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%

【属性別のアンケートのまとめ】

◆公民館の理想像についての多い意見

	項目	小学生	中学生	高校生 大学生	20代～50代 非子育て層	20代～50代 子育て層	60代～
理想像	理想的な環境	気軽に行ける 設備の充実 生活圏	気軽に行ける 設備の充実 コンテンツ 素敵な環境 生活圏	気軽に行ける 設備の充実 コンテンツ 素敵な環境	気軽に行ける 設備の充実	気軽に行ける 設備の充実 コンテンツ	気軽に行ける 設備の充実 生活圏 仲間づくり
	やりたいこと	家の近く 集会所	家の近く 集会所	目的	目的	家の近く 集会所 交流	家の近く 集会所
	関心	それぞれ	それぞれ	それぞれ	それぞれ	それぞれ 気分転換 子どもと できること	それぞれ

◆現状感じていることでの多い意見

	項目	小学生	中学生	高校生 大学生	20代～50代 非子育て層	20代～50代 子育て層	60代～
現実	利用目的	図書（読書） 教室	図書（読書） 勉強		サークルの講師 会議	図書利用 保育園児は図書	サークル活動 会議
	よかったこと	交流 学び	交流 学び・自習	自習	交流 学び ビジネス利用	交流 学び	交流 新たな学び
	移動時間	10分以内 自転車	10分以内 自転車	10分以内 自転車	10分以内 目的あれば20分 自動車	10分以内 目的あれば20分 自動車	10分以内 目的あれば20分 自動車
	移動手段	徒歩 自転車	徒歩 自転車	徒歩 自転車 自動車	自動車 送迎	自動車 送迎	自動車 送迎
	利用頻度	ほとんど使わない 習い事（月1） 図書	ほとんど使わない 図書	ほとんど使わない	ほとんど使わない	ほとんど使わない 図書	ほとんど使わない 6割は利用
	利用頻度理由	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？ 年配の人が行くイメージ	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？ 忙しい 敷居が高い 魅力がない	利用方法？ 必要ない 何をするとところ？ 興味がない 忙しい 町外の施設
	休日の過ごし方	家族と過ごす 家での作業 習い事・塾 友達	家族と過ごす 家での作業 習い事・塾 部活 友達	家族と過ごす 家での作業 部活 友達	家族と過ごす 家での作業	家族と過ごす 家での作業	家族と過ごす 家での作業 農作業
	移動×利用	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する	目的があればどこ でもいく 近いと頻繁に利用 する

3.2 住民ヒアリングのまとめ（住民ヒアリングの結果）

策定委員会のメンバーが知人などにお話し、ヒアリングを行いました。直接対話することで、住民の回答内容の背景や思いなど具体的な状況が見えてきました。公民館への理想的な姿は、気軽に行けることや設備の充実です。ヒアリングからも小中学生の交通手段は徒歩か自転車が多いです。高齢の方の移動手段は、車を使われるが、移動時間が短いほうがいいといった声が多くありました。拠点の場所は、家の近くなどアクセスがしやすい環境が望まれています。

公民館の利用者に対しては、アンケートと同様に社会教育のねらいである交流や学びを行う場所という施設機能は伝わっていますが、ヒアリングからでも住民の大半は利用方法がわからない、自分には必要ない、何をするとところかわからないといった声が多く、公民館はほとんど使われてない状況が見えました。

ヒアリングによって、住民の方の日ごろの生活の姿など、生活の具体的な状況とニーズを把握することができ、現状における理想と現実の差と課題を感じました。

1 住民ヒアリングの目的

アンケートだけでは拾えない住民の声や回答の背景、より具体的な課題感やニーズを洗い出すため。

2 住民ヒアリングの設計

対 象 者	大山町民、回答方法（直接インタビュー）
期 間	1か月 令和6年7月～8月
実 施 方 法	基本構想策定委員会のメンバーが住民から直接声を聴く

3 ヒアリング対象

対象者	回答数
小中学生	3
高校生・大学生	6
子育て中の親（乳児・幼児）	5
子育て中の親（小中学生）	11
非子育て層（20～50代）	6
60～80代	9
収集数	40

4 住民ヒアリングの概要

【小中学生 まとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：事業への参加、習い事、子どもの通学路上に公民館がある、図書コーナー
- ・利用しない人の状況：用事がない

～気付き～

- ・目的がないと行かない
- ・利用していない子供たちが、利用する環境を考えることが必要（使い勝手の良い wifi やカフェ機能）

◆理想的な施設

- ・フリースペース、寂しいときに行ける場所、目的がなくても行ける場所

～気付き～

- ・子どもから大人まで自由に過ごせる場所、居心地がいい場所
- ・保護者が家にいないので、子どもが友達の家で遊ぶことが少なくなった。
- ・友達同士で遊べない。

◆休日の過ごし方

- ・友達（ゲーム・サッカー）と遊ぶ、家族（旅行・買い物・お出かけ）と過ごす、習い事に行く

～気付き～

- ・子どもは超多忙、ゲームをする場所がない（屋外でしている）
- ・休日より平日利用を優先的に検討するほうが良い

◆お気に入りの場所

- ・かあら山（子ども部屋・駄菓子・Wi-Fi）、中山トレセン（ずっと遊べる）、友好館（話せる・Wi-Fi）

～気付き～

- ・自分の場所が欲しい子どもが多い
- ・保護者も安心できる場所、使い勝手の良い Wi-Fi、無料で利用できるか低価格、保険も入っている

◆関心があること・学びたいこと

- ・関心事は多種多様
- ・利用者だけでなく、職員の居心地もよくあってほしい
- ・職員も楽しんで働ける場所

～気付き～

- ・将来のやりたいことにつながるができる場所
- ・現状は子どもの関心にフォローができてない
- ・魅力ある施設、音響設備（カラオケ・ダンス）
- ・働く人に良い環境

【高校生・大学生 まとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：高校生は、公民館に用事がない

～気付き～

- ・高校生の公民館利用は、ほとんどない

◆理想的な施設

- ・勉強ができる施設が望まれている

～気付き～

- ・「学習室」と明確化している環境がないと公民館には行きづらい
- ・駅近、生活導線上など立地条件が重要

◆休日の過ごし方

- ・部活、家族と過ごす、友達がメイン

～気付き～

部活…学校、家族…家、友達とは町外がメインの集まる場所、町内の友人と会う機会は減少

◆お気に入りの場所

- ・イオン、コンビニ、家、カラオケ、学校

◆関心があること・学びたいこと

- ・関心事は、多種多様

～気付き～

知識 < アクティブな活動 ▶ 現状の公民館ではカバーできていない

【子育て中の親（乳児・幼児）のまとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：利用しない、興味がない
- ・利用してよかったこと：交流ができる、新たな学びを得ることができる

～気付き～

・未就学児向けの施設の環境でもなく、未就学児は事業対象にもなっていないので、そもそも行く機会、目的がない

◆理想的な施設

- ・気軽に行けること、情報発信が充実していること、設備が充実していること、敷居が低いこと

～気付き～

- ・現状の公民館は、近寄りたがたい雰囲気がある（目的がないと行かない）
- ・そもそも公民館がどんな場所かわかっていないので、理想がわからない様子だった

◆休日の過ごし方

- ・家族と過ごす、家のことを行う、趣味/旅行に行く、部活動/保護者会への参加
（参加者として）集落活動、地域活動、ボランティア活動に参加する

～気付き～

- ・現状では、子育て世代が公民館に来る目的がないと考えられる（来ても何もできない）
- ・現状の公民館は、休日の過ごし方にフィットする施設と捉えられていない

◆お気に入りの場所

- ・スーパーマーケット、四季彩園、パン屋、図書館本館、仁王堂公園、フォーラムなかやま

～気付き～

- ・町内に家族で出かけるとしても気軽に行ける場所の選択肢が少ない（子連れで行きやすい場がない）
- ・雨の日には買い物か図書館ぐらいしか選択肢がない

◆関心があること・学びたいこと

映画鑑賞、ガーデニング、手芸、料理、ファッション、アウトドア、筋トレ、ストレッチ、語学、美容・健康、デザイン、ストレッチ、ヨガ、ピラティス、フラワーアレンジメント、美容・健康 等

▶多種多様

～気付き～

- ・個人の関心ごとを網羅した施設として整備することは困難
- ・ある程度の自由度がある空間づくりをしなければならない
- ・実際に関心あることは多いが、子どもと一緒に参加できるような事業が現状では少ない
- ▶子育て中の親は、子どもと一緒に参加しなければならないという前提がある

【子育て中の親（小中学生） まとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：使わない人がほとんど、公民館に行くときは会議、図書館や子供の送迎
- ・利用してよかったこと：交流は良かったこととして捉えられている

～気付き～

- ・自分の意志で行く理由が現状ない
- ・図書館があれば行く人はいる
- ・子どもの用事があれば行く

◆理想的な施設

- ・若者向けのスペース、子どもの事ができる、子育て関連の設備、フリースペース、使い勝手の良い Wi-Fi が必要

～気付き～

- ・子どもに関係することの意識が強い、気軽な飲食できる空間があると良さそう
- ・使いやすいフリースペース、使い勝手の良い Wi-Fi が必要

◆休日の過ごし方

- ・家の事、子どもの事

～気付き～

- ・子ども中心なので一緒に出かける飲食店、商業施設の情報があってもいい

◆お気に入りの場所

- ・色々な場所がある中で、共通することはゆっくりできる場所が多い

～気付き～

- ・子どもが好きな場所には、「この人がいる場所」みたいな要素もある

◆関心があること・学びたいこと

- ・多岐にわたる、温泉が人気

～気付き～

- ・ゆっくりしたい、癒されたい
- ・学びたいことを結構選んでいる
- ・子育て落ち着いたら学びたい

【非子育て層（20代～50代）まとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：行く理由がない、用事もない

- ・利用してよかったこと：図書館がある（本を借りることができる）

～気付き～

- ・公民館に行くきっかけがない
- ・施設に備わっている図書館機能によって本のつながりができていることが来る理由のひとつ
- ・交流、つながりをつくることの大切さが 20 代～50 代には伝わってないかもしれない
- ▶ 人は助けることができる、つながりがない人は孤立する、孤立すると存在さえも分からないから助けられない

◆理想的な施設

- ・関心があることや将来に向けた意見を踏まえた施設、能力・特技が伝えられる
- ・施設に行くための選択肢がある

～気付き～

- ・将来に向けた目線と意識が大切、個々の能力を披露できる場
- ・今の生活上の選択肢に入るか否かがポイント

◆休日の過ごし方

- ・趣味、旅行、家のこと、家族・友達と過ごす、地域活動もたまに行う

～気付き～

- ・家族と過ごす方が多い
- ・子育てを終えた年代の方の時間の使い方を調査してもよいかもしれない
- ・これから子育てとなる世代を対象に、将来の要望は必要な要素
- ・子どもさんがいない方に関心を持ってもらえるきっかけづくりも必要

◆お気に入りの場所

- ・生活のために必要、おいしい、欲しいもの、いろいろ揃う場所。趣味、食事、自然が素敵な場所

～気付き～

- ・そこに行けば色々ある、ニーズを満たす、心安らぎ、満足
- ・車があるから自由に行動できる ▶ 目的があれば行く、
場所への距離は、判断基準として低い

◆関心があること・学びたいこと

- ・来た人が何かを得ていく場

- ・利用者が固定化している、だれでも使える環境づくり
- ・過去のやり方にとらわれない、固執しない柔軟な発想、町内外万人受けする施設、名前も柔軟に
～気付き～
- ・制限やルールを最小にして、たくさんの方のニーズを受け入れる大きな器のような環境が理想
- ・建物機能も当然だが、日々何をするか、しているか
- ・施設の運営側の方針と内容や人員体制も重要

【60代～80代 まとめ】

◆公民館の利用（状況・利用目的・よかったこと）

- ・利用状況：利用する人、しない人の利用の考え方はそれぞれ、利用する人の利用頻度は高い
～気付き～
- ・自治会の集会所など、身近なところで誰もが利用できる場所をもっと使えるようにできないだろうか
- ・来ない方々へのきっかけづくり、仕組みづくり、身近に感じてもらう環境づくりが必要

◆理想的な施設

- ・多世代が楽しめる施設、ニーズに合わせることでできる施設、自由度の高い間取りが備わっている
施設
～気付き～
- ・だれ一人取り残さない意識、生活の導線上に拠点がある、メンテナンスが簡易な建物、周辺人口が多い場所、学校が近い立地

◆休日の過ごし方

- ・介護、無職、仕事など様々
～気付き～
- ・孤独と関わりの2つの考えるべきテーマが見えた
- ・これからの公民館は、従来の枠組みとやり方で考えない意識を持つこと

◆お気に入りの場所

- ・生活のために必要な日用品など、買い物ができる場所
～気付き～
- ・そこに行けば色々ある場所、ニーズを満たす場所

◆ 関心があること・学びたいこと

・関心があることはひとそれぞれ、車が運転できなくなることが心配されている

～気付き～

・交通手段の確保は重要（自分で行ける、自分で帰ることができる）

【属性別のヒアリングのまとめ】

◆ 公民館の理想像についての多い意見

	小学生	中学生	高校生 大学生	20代～50代 非子育て層	20代～50代 子育て層 (乳児・幼児・小中学生)	60代～
ありたい姿	理想的	目的がなくても 行ける フリースペース	目的がなくても 行ける フリースペース	勉強ができる	気軽に行ける 設備の充実 コンテンツ 情報発信の充実 敷居が低い 若い人向け フリースペース Wifi	多世代が楽しめる
	関心	それぞれ	それぞれ	それぞれ	それぞれ 気分転換 子どもとできること	それぞれ

◆ 現状感じていることでの多い意見

	小学生	中学生	高校生 大学生	20代～50代 非子育て層	20代～50代 子育て層 (乳児・幼児・小中学生)	60代～
現実	利用目的	習い事	図書（読書） 勉強	サークルの講師 会議	図書利用 保育園児は図書	サークル活動 会議
	よかったこと	通学路上にある	通学路上にある	自習	交流 学び ビジネス利用	交流 新たな学び
	利用頻度	ほとんど使わない 習い事（月1） 図書	ほとんど使わない 図書	ほとんど使わない	ほとんど使わない 図書 会議 送迎	利用する人は 利用する
	利用頻度理由	用事がない	用事がない	用事がない	理由がない 用事がない	利用しない 興味がない
	休日の過ごし方	家族と過ごす 習い事・塾 友達 休日忙しい	家族と過ごす 習い事・塾 友達	家族と過ごす 家での作業 部活 友達	家族と過ごす 家での作業 部活・保護者会	介護 無職 仕事

3.3 公民館長、公民館職員、社会教育委員、公民館運営 審議会委員等 との意見交換の概要（話し合いの経過）

公民館関係者へのヒアリングを実施し、情報共有と意見交換の場を設定しました。主な声として、「旧町ごとの拠点は必要（なくすと地域が寂れる）」、「公民館の必要性の整理」、「地域コミュニティにおいて課題解決は誰が何をどのように担っていくのかの体制の構築」など、将来に向けた課題感が指摘されました。拠点については、いつ頃、どこに、どの拠点で、どのような機能設備、どのように運営していくかなどが指摘されました。

1 公民館長・公民館職員

実施日 令和5年3月24日・令和5年4月11日

【公民館に対する意識】

- ・地域ごとの住民感情は無視できない
- ・公民館長は住民感情の代弁者でもある
- ・集約や廃止となると拠点がなくなるエリアの住民から地域シンボルをなくすのかといった声は必ず出る
- ・公民館の必要性は、公民館の理念に通じており、整理する必要がある
- ・公民館を廃止してはいけない

【大山町の地域コミュニティを担う、公民館と地域自主組織について】

- ・地域コミュニティづくりを行っている地域自主組織と公民館とは、それぞれ役割を担って連携していくこと、お互いに補完しあうことが重要になってくる
- ・現在の旧大山町地区のように旧村単位で、地域コミュニティを支援できるように、中山と名和にも予算と人員のプラスがされれば、地域コミュニティが発展する可能性がある
- ・大山分館は、同じ施設に公民館と地域自主組織が同居しており、他の地域とは違いがある。
- ・地域自主組織と公民館の共催事業は、公民館側からの事業提案に対し、地域自主組織が協力する形ができています
- ・現在の地域自主組織の組織体制で、社会教育まで踏み込んだ事業は難しい
- ・地域自主組織に関わる人も社会教育という概念と社会教育の内容を知っていく必要がある
- ・双方がお互いに強みを伸ばし、補完しあう関係性が維持できればよいと感じる
- ・運営体制が一体化となった場合、職員の処遇などの問題が出る
- ・地域自主組織の良さは任意団体であること

- ・住民主体で住民参画の元で運営されていることが重要なポイント
- ・地域自主組織の実施する事業によっては、公民館と比較すると自由度が高い場面がある
- ・公民館機能を持つことで行政の出先になり、行政の考え方に左右されるようになると地域自主組織の強みである自由度が損なわれることも考えられる
- ・組織を安易に統合するだけでは、地域の課題解決の手段にはつながらない
- ・お互いの良さを引き出し、協力（補完）しながら地域住民と一緒に事業を進めることがよい
- ・公民館と地域自主組織をひとつの形にするのであれば、旧 3 町が同じ条件で運営できる新しい仕組み（人的・財源等）を作る必要があると考える

2 社会教育委員・公民館運営審議会委員

実施日 令和 5 年 7 月 28 日・ワークショップ

進捗共有 令和 6 年 5 月 28 日・10 月 8 日・11 月 21 日

（１）令和 5 年 7 月 28 日ワークショップの概要

【公民館に対する意識】

○現在公民館を使っている人だけでなく、使っていない人へのアプローチが大切

◆公民館を利用しない人の現状

- ・何するところか知らない、使い方がわからない、一部の人が行くところといった認識

◆公民館を利用しない人へ伝えたいこと

- ・みんなの学びの場、様々な活動が生まれる場であることを伝えたい

◆公民館を利用しない人が感じている公民館の現状

- ・気軽に行ける、敷居が低い、事業が充実している

◆公民館にを利用しない人に対する今後の課題

- ・利用者の減少が予測される（車の運転できない方が増える等）

▶計画をまとめていくアプローチとして、アンケート・ヒアリングが大切

より良い拠点づくりに向け、住民の声、今の時代の住民の思いをしっかりと拾うこと

【公民館と地域自主組織との関係性】

○公民館も地域自主組織も地域の課題解決につながるための取り組みが目的

◆公民館の現状

- ・社会教育法が根拠
- ・つどう～まなぶ～むすぶがコンセプト
- ・いつでも開館（常勤職員がいる）
- ・町内の地域全体をカバーできている
- ・過去からの歴史があるので、信頼と安心感がある

◆地域自主組織の現状

- ・拠点の開放、開館はスタッフ体制によって組織ごとに様々な状況である
- ・参加者が年齢や関心に制限なく多様（人・場所は様々）
- ・予算がある（町から補助金の交付による財政的支援がある）
- ・まちづくり委員は、各集落から1名は選出されている
- ・活動が住民主体
- ・旧村の範囲に拠点がある
- ▶双方、互いの強みを組み合わせる
お互いの強みを消す形にならないように、連携が重要

【各エリアの公民館を中心とした地域づくりの現状と理想の姿】

○家から近い・身近に感じること、現在の大山町に存在しない機能を備えた施設のニーズがある
全体として公民館は、町の学びの砦であり、昔からの継続性があるため、それぞれの地域の文化の継承と地域の文化の度合いを表している

◆旧町エリアの現状

- ・エリアごとに多彩な取り組みが実施されていて、町内の色々なエリアにいきっかけとなっている

◆旧村エリアの現状

- ・エリアごとの特色ある取り組みが実施されている
- ・家から近いエリア
- ・地域自主組織との連携ができる

◆町にない環境や拠点の現状

- ・音楽やダンスができるところがない
- ・家から遠い場所は、行きにくさが出る ◀ 交通手段の確保が大前提となってくる

◆施設機能の理想の姿

- ・有効的な施設空間の使い方、明るく素敵な建物、2 階建てはエレベーターが必要

◆その他 理想の姿

- ・住民に向けた、情報の近さ（アナログ×デジタルの活用）

3 住民ヒアリング（2 回実施）

◆住民ヒアリングでのワークショップから出た住民意見のまとめです。

【1 回目 実施日】

地 区 名	日 に ち	回 数	時 間
中山地区	9月19日（火）	昼と夜の2回	1時間30分
名和地区	9月21日（木）	昼と夜の2回	1時間30分
大山地区	9月22日（金）	昼と夜の2回	1時間30分

【実施概要】

- ◆テーマ：わくわくする拠点施設をみんなで創造しようを考える

- ◆実施形式 ワークショップ型の意見交換会

- ◆実施場所 旧町ごとに 2 回実施、3 地区（中山・名和・大山）×2 回＝6 回

- ◆実施内容 1 組 4 人～5 人でグループ化、付箋を活用した、対話型ワークショップ

◆質問内容

- ①公民館に対する共通認識の醸成（現在取り組んでいること、なぜそれを行っているのか）
- ②活動を実施する時、理想的な状態から要素を抽出（わくわくした体験や活動には何が必要か）
- ③場所（活動を行うための拠点はどこにあるといいか）

◆参加状況

- ・中山：21名（昼の部：10名 夜の部：11名）
- ・名和：13名（昼の部：8名 夜の部：5名）
- ・大山：12名（昼の部：11名 夜の部：1名）

【公民館に対する共通認識の醸成】

○社会教育の必要性、公民館で行われる事業は、公民館が意図をもって実施している

- ・書を習っている→自分を律するため▶日本の心を養うことができる▶自己目標の実現・仲間づくり
- ・洋裁（バッグづくり）▶文化祭が目標▶展示したい▶ほめてもらえる・仲間づくり
- ・英語の資格取得▶会話の技術向上▶外国の友達ができる▶楽しい・仲間づくり
- ・リズム体操▶フレイル予防▶公民館に設備がある▶出会い・仲間づくり
- ・お話会▶妄想と熱中▶色々な世界を知る▶世代交流・出会い

公民館の役割は、「つどう・まなぶ・むすぶ」を拠点内の活動の中で作っていく

何かの活動を行うには、**場所が必要である**ことを認識いただくことができた

【活動を実施する時の理想的な状態】

○わくわくした体験や活動から、自分自身の理想を実現するための要素を抽出しました

◆共通の目的がある

・お話会をする、地域活動の運営をする、おいしいごはん会をする、家族でドラマ鑑賞する、祭りの運営や参加、運動会を行う、ボランティア活動する、子育て関係の活動に参加する、など

◆達成感を得ることができる

・こどもたちの笑顔を見ることができる、参加者が楽しむ、成果が出る、行事が成功する、行動が軌道に乗る、登山に挑戦する、草刈りがきれいにする

◆仲間が増える

・みんなに技術を伝える、参加者同士ともに汗をかく、共感する、異年齢の友達ができる、仲間と読書をする、食事会を行う、心に残る講演を行う、合奏する

◆新たな出会い

・コンサートで知り合う、知らない世界で出会いがある、異年齢の友達ができる、サークル参加者が増えることで友達ができる、美術館巡りで知り合う、知らない人と会話する、ゲームで友達ができる

◆学び・気づきが生まれる

・興味と関心を持つ、準備と発表が経験となる、知らないことを知る、こどもと遊ぶ、新たな発見をする、新しさに触れる、新しい道具でできることが増える

◆喜びができる

・友達と一緒に喜びあえる、町の自慢ができる、作品をほめてもらえる、誰かから注目されるとうれしい、珍しい物を発見できる、他者の成長（こども）がうれしい

◆自分磨きができる

・自分の成長につながる、心が動く、自分らしさが見いだせる、いろいろな人に感謝される、自らチャレンジできる、出演者として参加する、他者を受け入れることができる

◆自分の楽しみにつながる

・一人でゆっくりできる、癒し（絵を描く）になる、講演会で感動する、桜並木が好き、お米祭りが楽しみ、楽しみがあることがうれしい、自分が楽しむことができる

【活動を実施するために必要なことは何か】

○理想的な活動を実施するため必要なことを考え、そのためのアイデアをつなげた

◆場所が必要

・活動できる場所、開かれた場所、サードプレイス（第 3 の居場所）、学校の活用、仕事ができる場所、家庭以外の場所、施設内で知り合える場所、自由度が高い場所、広い土地がある場所、展示可能なスペースのある場所、ステージがある場所

◆環境が整っていることが重要

・安心できる場所、チャレンジできる場所、開放的な環境が整っている場所、前向きに学べる場所、金銭的な負担がない場所、無料 Wi-Fi の環境が整っている場所、こどもの放課後に使える場所、若者が集まる場所

◆交通手段の確保が必要

・公共交通の利便性を高める、既存の交通環境の利用ができる、新たな手段（場所を考慮）を検討する、家から近い場所がいい

◆お金が必要

・活動には施設利用料が必要、活動にかかる経費が必要、講師料が必要、行政の支援があると助かる、運営する会費が必要、施設修繕するための費用が必要、各種補助金制度があるといい、金銭的支援を受けることができる団体になる

◆仲間が必要

・地域の仲間がいると活動の幅が広がる、活動協力者がいるといろいろな取り組みができる、コーディネーターがいると取り組み内容が発展する、参加できる企画ができる、祭りを一緒に実施できる、応援してくれる人が増える、仲間の理解が進む、一緒にやることで楽しい

◆仲間との信頼関係を築くことができる

・話し合う時間ができる、関わりあう時間ができる、共感が生まれる、一緒に感動する、共に行動する時間ができる、合意形成が醸成される、譲り合いの心ができる、平和な気持ちが生まれる

◆情報発信・PR が大切

・声をかける人と参加するまで声をかけ続ける人がいるといい、インターネットを活用する、発信力の強化を行う、SNS を使う、チラシをつくる、リーフレットで発信する

◆その他の要素

・時間を確保する、心の余裕がある、知恵を引き継ぐ、知識と技術を伝える、好奇心を生み出す、きっかけをつくる、やり遂げる喜びを得る

【拠点施設の場所】

○家に近いこと、既存施設（公共施設・民間施設）の利用、現在の大山町にない機能の施設、施設の機能や内容を重要視するといったニーズがある

◆集落エリアの範囲

- ・自分で行ける場所、集落内の集会所の活用、歩いて行ける場所、自転車で行ける場所

◆旧村エリアの範囲

- ・学校の近くの場所、子どもの居場所（安心）をつくる、公民館の分館を増やす（中山と名和）、地域自主組織と活動を連携する

◆旧町エリアの範囲

- ・役場の近くの場所、大山町の中心に位置づけられる場所、人が集まる場所、文化施設の近くの場所

◆駅、バス停等の周辺の範囲

- ・公共交通機関の接続と可能な場所、高校生の利用ができる、行きやすい場所、集まりやすい場所

◆スーパー等の周辺の範囲

- ・生活圏にある、病院も近い場所、食事ができる場所、子育て施設も近いといい、人が集まる場所、高齢者の利用に配慮された場所

◆現在の大山町にない機能や設備の整った環境

- ・音楽の演奏会ができる場所（コンサートなど）、ダンスできるホールのある場所、映画館、展示会場、現在の公民館にない設備、便利なものが一つあればいい

◆立地に関するその他の要素

- ・既存施設の利用（公共施設・民間施設）、既存施設（公共施設・民間施設）に合築や集約する、県内外の先進事例を研究する
- ・新たな複合施設を建設する（役場やその他の行政機能、カフェ、飲食、買い物など）
- ・静かな場所、清潔感のある場所、景色のいい場所、フリースペース、自由にくつろげる場所
- ・無料 Wi-Fi が使える場所、双方向の情報交換（ラジオ、TV、オンライン活用）ができる場所
- ・興味のあることが行われていたり、情報が得られたりする場所
- ・利用にお金のかからない施設、子どもが遊べる施設、文化に触れることのできる施設
- ・エレベーターの設置、バリアフリー化された施設、車いす対応の施設、トイレの洋式化

【2回目 実施日】

地 区 名	日 に ち	回 数	時 間
中山地区	1月23日（火）	昼1回	1時間30分
名和地区	1月24日（水）	昼1回	1時間30分
大山地区	1月25日（木）	昼1回	1時間30分
全体	1月28日（日）	昼1回	1時間30分

【実施概要】

- ◆テーマ：暮らしの中に位置づけられる拠点施設の場所や規模、求められる機能を考える
話し合いの内容を開催地区のエリアに絞り、上記テーマについて意見交換

- ◆実施形式 ワークショップ型意見交換会

- ◆実施場所 旧町ごとに実施。平日開催（中山・名和・大山）、休日開催 4回

- ◆実施方法 1組 4人～5人でグループ化 付箋を活用した、対話型ワークショップ

◆実施内容

- ・第1回意見交換会の内容の共有：求められる施設の理想像を再確認
- ・町の人口、財政状況、公民館費用、近隣自治体の事例：町の置かれている状況を確認
- ・場所、機能、規模：活動を行うための拠点の具体的な立地

◆参加状況

- ・平日開催 中山：8名、名和：3名、大山：1名
- ・休日開催 9名（名和6名、大山3名） 合計 21名

※平日開催した名和地区、大山地区については雪のため参加者が少なかった

【拠点施設の場所 中山エリア】

◆フォーラム中山

- ・人が集まるイメージがある、既存施設の活用（社会福祉協議会・温泉館等）の可能性

◆学校の空き教室

- ・放課後子どもがそのまま移動できる、児童クラブも実施しやすい

- ・高齢者とのふれあいができる、サークル活動の発展（子どもと一緒に）もできる

【拠点施設の場所 名和エリア】

- ◆水防倉庫周辺
 - ・小学校・中学校・トレセンが同一導線上に存在する、学校が近い（子どもが寄れる）場所
 - ・車でアクセスがいい、海から離れているので防災拠点にもなりうる
- ◆駅の周辺
 - ・小中学校が近い（名和駅）、9号線が近い（御来屋駅）
- ◆集落の公民館
 - ・家が近い

【拠点施設の場所 大山エリア】

- ◆駅～IC 周辺
 - ・大山公民館（駅に近い）、人の集り（住宅等増加）がある、交通のアクセスがいい
- ◆大山小学校区
 - ・既存の公共施設で維持ができる、分館機能は継続して必要
- ◆名和地区
 - ・全町で1つであれば名和地区、大山と中山は既存施設を利用、複合施設の必要性もある

【施設に求められる要素 中山エリア】

- ◆施設の機能
 - ・カフェ、調理室、和室、Wi-Fi、避難場所、社会福祉協議会の活用
- ◆施設の内容
 - ・文化教室、トレーニングジム、児童クラブ、勉強教室、配食サービス
- ◆規模
 - ・既存の公共施設の活用で十分、町のデマンドバスで施設同士を結ぶ
- ◆重要なポイント
 - ・今後の公民館が何を指すのかの整理が必要 → 立派な建物は二の次でよい
 - ・現在の公共施設の利活用 → 移動公民館や出向く公民館といった発想も必要
 - ・目的と中身が大切と感じる
 - ・必要なのは人の力（関わる人、施設での企画、既存の建物をどう使うか（空き家含む））

【施設に求められる要素 名和エリア】

◆施設の機能

- ・カフェ、宿泊、屋内プール、調理室、シアター、ホール、Wi-Fi、図書館、コワーキングスペース
- ・コンビニ、避難場所、屋根付き多目的施設

◆施設の内容

- ・音楽スタジオ（防音）、食事や買い物ができる
- ・子どもが19時ぐらいまでいることができる、用事がなくても行ける

◆施設の規模

- ・1階を駐車場・2階を施設、雨に濡れない車の乗降スペース（玄関）、防災の視点
- ・本庁舎建替えも視野に入れる

◆ポイント

- ・災害に強い、役場と学校等が同じ導線上、土地が使いやすいと思われる

◆重要なポイント

- ・施設の目的に合わせた立地の検討 ▶ すべての要望をかなえることはできない
- ・公民館は何をしたらいいのか
 - ▶ 使っている人しか公民館の目的はわからない、使わない人は公民館には興味がない
 - 他自治体の優良事例を研究し、参考にしてほしい

【施設に求められる要素 大山エリア】

◆施設の機能

- ・カフェ、映画館、ダンスホール、Wi-Fi、給湯室、自動販売機、コワーキングスペース
- ・コンビニ、避難場所

◆施設の内容

- ・サードプレイス（大人・子ども）、Chat機能（国際交流・進学相談）
- ・用事がなくても行ける、子ども（小中高）の安全の拠点

◆施設の規模

- ・大山であれば、今の公民館より広く（キナル南部くらい）する。1つであれば複合施設とする

◆拠点の数

- ・1つか2つまで、既存の公共施設の活用

◆重要なポイント

- ・これからのための施設であり、利用者が価値を生み出せる施設が必要
- ・ダイバーシティ（多様性）を体現出来る施設とすること

4 役場内部検討チーム

【公民館のありたい姿についての検討（令和 6 年 5 月 1 日）】

- ◆ 公共施設建設の意義、将来を考えた時の公共施設の整理
 - ・行政が資産を持つことの意味を深く十分に考えるべき
 - ・これまでの公共施設が果たしてきた機能は、他のサービスに置き換わっている機能もある
 - ・イニシャル＋ランニングで全体のコストを判断することが必要
 - ・全体コストを見てトータルで比較して安くなるならイニシャルにコストをかけてよいと判断できる
 - ・ランニングコストの低コスト化を考える
 - ・コストダウンを図れる省エネ対策などの検討も行う
 - ・今後の人口減少を考えると広い施設より、コンパクトな施設でよいかもしれない
 - ・未来（～50 年）にわたって必要なもの、これまであったものの単純更新ではない
 - ・規模感の設定が重要
 - ・NE-ST（健康省エネ住宅・鳥取県の取り組み）認定が取れるぐらいの建物を考える
- ◆ 建物の機能に関すること
 - ・高断熱による冷暖房費の圧縮、太陽光パネル設置による自主電力の確保→災害への対応にもなる
 - ・防災施設、避難所にもなる場所（駐車場の広さ・トイレの数も考慮に入れる）
 - ・パッシブデザイン（太陽の光や熱、風などの自然エネルギーを活用して、快適な住空間をつくる設計手法）な建物
 - ・今の施設は段差が多いので平屋の検討も必要（バリアフリー化）
- ◆ 場所に関すること
 - ・アクセスしやすい場所
 - ・気軽に行ける場所
- ◆ 施設で行われるソフト事業に関すること
 - ・高齢者、子ども、障がい者など、人を選ばず受け入れることができる機能や施設
 - ・異年齢交流ができる拠点
 - ・家族でも、ひとりでも、グループでも一日中過ごせる場所
 - ・カフェは、昼夜営業できる形態がよい
 - ・チャレンジショップ（1 日店長など）ができる機能

- ・図書館や自習スペースなど学びに通じる場所
- ・異業種（農業～会社員など）の交流や集える場所、空間が必要
- ・子どもが休日に雨天でも遊べる場所、空間
- ・コミュニティカレッジ（専門学校）の運営、月 1 の健診の実施場所、イベントが盛りだくさんある拠点
- ・地元の人の特技が披露できる場所や取り組み、地元の人が物販できるスペース
- ・e-スポーツを楽しめる空間
- ・子どもが集まりやすい立地と雰囲気と取り組み、子どもが滞在することのできるスペース
- ・子どもが遊べる空間、子ども食堂の実施と運営、親が子どもと一緒に過ごせる場所
- ・様々な情報発信をたくさんできる場所

◆ハード的な視点や施設の機能面に関すること

- ・水族館（海の業の施設）の運営、様々なスポーツ施設（自転車拠点とか）の併設
- ・飲食（軽食・カフェ）できる場所や手段がある拠点
- ・音楽スタジオの設置、ダンスホール（ダンスの練習場）の設置、気軽なフィットネスの空間
- ・図書館の併設、駐車場に困らない立地、ワンストップサービスが受けられる複合施設
- ・開館に関して、祝日も開いている施設
- ・学校の近くにある施設
- ・勉強・食・図書館・学びなど様々な目的の人が集まるキナル南部のような施設
- ・子どもたちが学校帰りに寄ることができる、施設の雰囲気に開放感がある
- ・施設内には、子どもがさわいだり、しゃべったりしてもいいスペースが配置させている
- ・ヴィレステ日吉津（きれい、広い、図書館利用率高い）。
- ・防災拠点になる、避難所になる

◆アクセス、立地に関すること

- ・だれでも利用しやすいアクセス
- ・車がなくても行けるところに施設がある
- ・公共交通の利便性の向上、子どもも拠点に行ける交通手段の確保

【施設整備についての検討（視察内容の共有を受けて） 令和 6 年 6 月 26 日】

◆施設計画において注意すべき点

- ・館内の部屋の配置、空調（調理室の換気）の位置
- ・施設のメンテナンスが容易な設計と整備、ガラス張り～メンテナンスに費用と労力がかかる

- ・予算規模にあった建物の建設、既存施設の利活用～壊すとお金がかかる～耐用年数の把握
- ・みんなが調理できる施設は、衛生面のリスク管理が必要、デザイン重視は施設管理で困ることがある
- ・ランニングコストを最小に考えた計画（空調（冷暖房）・換気：効果的に）

◆活かしたい視点

- ・既存施設、他施設、古い建物の活用
- ・利用者のターゲット設定が大切
- ・利用者の行動動線、施設利用するための交通網、立地条件
- ・町内県産材の木材利用～木材規制の緩和のルール～35 年が耐用年数
- ・建設後の維持管理のやりやすさを意識する（ランニングコストを意識）
- ・住民意見を計画に反映する
- ・計画したことが実施、収容できる広さ
- ・既存施設の稼働率調査を行う
- ・施設運営のための構成するスタッフの計画
- ・役場や各機関それぞれの専門性が活かせる・連携が取れる環境
- ・大山町の予算規模にあった施設の建設

5 中学生ヒアリング（名和中学校・大山中学校・中山中学校）

名 称	日 に ち	学 年	ク ラ ス ・ 人 数
名和中学校	7月16日（火）	2年生	2クラス・70名
大山中学校	12月13日（金）	3年生	2クラス・40名
中山中学校	12月20日（金）	3年生	1クラス・30名

【建設するなら 1 館、旧町ごとに 3 館とするかのメリットとデメリット】

～ 1 館建設～

◆メリット

- ・交流（たくさんの人・他のエリアの人）、他の地区（他校）の人と交流できる
- ・1 回でたくさんのが行える（まとまる）
- ・にぎやか、色々なことができる（遊ぶ・勉強する）
- ・大きい、広い、スペースがありそう
- ・居心地がよさそう、施設と機能が充実できそう、規模が大きく質の高い設備を作れる
- ・3 つ建てるよりお金がかからない、（3 つに比べて）維持費が安い、費用をかけられる

- ・使用率は上がる
- ・3つに比べて施設管理する人員を少なくできる

◆デメリット

- ・人が多くなる
- ・来ることができない人がいる（行くのが大変）、遠くの人が行きにくい
- ・その場所にしか人が集まらない
- ・どこに建てるのか立地でもめる
- ・運営費用がかかる
- ・知らない人がいる（不安・怖い）、知らない人ばかりだと気まずい、
- ・建設する場所があるのか
- ・できることが3つより限られる
- ・その施設の負担が大きくなる

～3館建設～

◆メリット：

- ・家に近い、行きやすい、
- ・これまで通りの感覚がある、安心感がある、気軽さを感じる
- ・使う人が多い
- ・避難所になる
- ・使用者の要望に応えやすい、柔軟な運営ができる
- ・地域ごとの活動にあわせて事業実施が可能

◆デメリット

- ・3館分のお金がいる、維持費がかかる
- ・狭いイメージ、小さいイメージ、機能が充実しない、公民館しか入らない、設備入らない、
- ・交流広がらない（他校の人との交流）変わらない
- ・すること限りある、中に入るものが少し寂しくなる
- ・来館者減りそう、利用者の分散、限られた人しか交流できない、
- ・職員が多くなり人件費増

【施設の理想像】

◆運動

- ・トレーニングジム（シャワー付き）、体育館、バレー、バスケット、遊具、グラウンド、プール

- ・ウォータースライダー、武道館、サッカー場、芝生付きの公園、体育館、子どもが遊べるスペース
- ・運動器具、筋トレ、サンドバッグ、多目的運動場、ボルタリング

◆学び

- ・PC 室、自習室、学生室、教えあいの場、図書室、漫画、カフェに併設、雨でも楽しく遊べる施設
- ・塾、勉強を教えてもらえるスペース（友達・大人・高校生等）

◆スペース（空間）

- ・一人になれる、交流、小さい子が来れる場所、TV、ゲーム、Wi-Fi、充電スペース、フリースペース
- ・寝られる（個室）、ゆっくりできる、談話室、休憩室、茶道のできる和室、お絵かきスペース
- ・ボードゲーム、カードゲーム、フリーマーケット、作品展示

◆機能

- ・きれいなトイレ、図書館（中学生も読める本）、映画、シアタールーム、クレーンゲーム、ボウリング
- ・カラオケ、病院（歯科・耳鼻科・眼科）、美容室、動物園、水族館、エレベーター、小さい遊具
- ・リサイクル（ペットボトル）、キッチン、音楽（聴く・やる）、ダンスホール、和室、洋室、ホテル
- ・郵便の受け取り

◆設備

- ・ライブテレビ、常設のスクリーンやモニター、ジオラマ、広めのホール

◆飲食

- ・フードコート、自動販売機、売店、お土産、屋台、キッチンカー、ラーメン
- ・カフェ、猫カフェ、犬カフェ、調理室、レストラン、ネットカフェ

◆やすらぎ

- ・リラックスルーム、マッサージチェア、サウナ、温泉、足湯

◆民間事業者との連携

- ・飲食、コンビニ、100 円ショップ、雑貨、駄菓子屋、
- ・浴衣レンタル（文化体験）、カウンセリング、散髪、コインランドリー

◆アミューズメント施設

- ・テーマパーク、動物園、水族館、観覧車、映画館、お化け屋敷

◆趣味

- ・釣り堀、は虫類ショップ、ビリヤード、ダーツ、プリクラ、カラオケ、ゲームセンター、プラネタリウム

◆音楽

- ・防音室、音楽スタジオ、ダンススタジオ、DVD ルーム、シアタールーム、ライブハウス

3.4 現状を踏まえた課題のまとめ (アンケート、ヒアリング、関係者からの声を根拠にまとめる)

アンケートとヒアリングから、各年代の住民が感じている公民館への理想的な姿と現実が整理され、大山町の公民館が抱える課題感が見えてきました。「家の近くにあるとよいが、近くにないから行かない（行きづらい）」、「公民館は住民活動や交流できる場所として整っているけれど、使っている人以外は施設の使い方や何ができるかあまり知られていない」。実態から見えてきた課題を公民館が解決していくには、将来を見据え、ターゲットを絞って対応していく環境づくりを考えていく必要があります。

ターゲット層

日常生活において、様々な困りごとがあるのにもかかわらず、交通アクセスなどの手段が限られ、課題が解決できていない世代層があります。日常の生活範囲が基本的に町内に限定される人をメインターゲットと設定しました。

メインターゲット：60歳以上の高齢者、20～50代の子育て層、小中学生

また、サブターゲットは、日常生活の時間割合の中心が町外であることや、交通手段として車での移動が容易なことなど生活の困りごとを解決するサービスにアクセスしやすいということで以下の年齢層を設定しました。

サブターゲット：高校生・大学生、20～50代の非子育て層

【利用頻度を向上させたいターゲット層別の日常生活での困りごとや抱えている課題】

①小学生・中学生について

◆小中学生の困りごとや抱えている課題

- ・平日、休日、子どもが集まることができない（個人宅使えない、友達の家が遠い）
- ・家の近くに安心して過ごせる居場所がない
- ・（特に雨の日に）家以外の居場所がない
- ・平日、家に帰っても共働きで親がおらず1人で過ごす ▶ 1人で不安。夕方にはお腹が減る。
- ・同世代以外とのつながりをつくることができない
- ・児童クラブに行けない子どももいる

◆小中学生の困りごとや抱えている課題による日常生活への影響

- ・家の近くに安心できる居場所がないので、友達と集まることもできず、友人とも遊ばずストレスがたまる
- ・ゲームやネットへの依存
- ・親は安心して仕事ができない
- ・空腹でイライラする、やる気が出ない
- ・友達や大人とかかわることで形成される人間関係が築けない

②20～50 代の子育て層について

◆20～50 代の子育て層の困りごとや抱えている課題

- ・平日や休日、町内に気軽に行ける場所がない
- ・日々の子育てや仕事に疲れている
- ・子育てや仕事、日常生活の悩みがある（悩みを相談できる場がない）
- ・子どもを連れていく場所がない。子どもと楽しめる場所がない
- ・雨の日は近隣の商業施設への買い物ぐらしか子どもと一緒に過ごす選択肢がない
- ・日々の生活の気分転換できるところがない

◆20～50 代の子育て層の困りごとや抱えている課題による日常生活への影響

- ・日々の疲れが引き起こす、体力面・精神面など負の循環になってしまう
- ・安心、安定した日常生活ができない
- ・休日時の子どもと大人両方のストレス増加
- ・雨の日の子どもと大人両方のストレス増加
- ・心身のストレスが引き起こす様々な人間関係のひずみ（夫婦間・親子間・虐待など）

③60 代以上について

◆60 代以上の困りごとや抱えている課題

- ・平日や休日、町内に気軽に行ける場所がない
- ・親の介護をする必要がある
- ・退職後、することがなく家にいる
- ・人とかかわるきっかけがない

◆60 代以上の困りごとや抱えている課題による日常生活への影響

- ・親の介護のため家から出ることができず、自分を含め家族にストレスがたまる
- ・行動することが少なくなり、認知症などの病気の危険性が高まる
- ・近所づきあいもなく、つながりがないため孤立してしまう（→孤独は病気になるリスクが高い）

【まとめ】

社会教育拠点施設（公民館）の役割は、この**ターゲット層へのアプローチをしていくこと**です。社会教育拠点施設（公民館）の**アプローチが、セーフティーネット**となり社会的課題として大きな問題となっている事象への**解決の糸口となりうる可能性**を秘めています。

4. 事例調査（視察の概要）

4.1 視察の概要と示唆（視察の結果）

他の自治体を見ると、近年建設されている公共施設は複合施設が多く、様々なメリットを生み出し、たくさんの方に利用されています。また、明るく開放的で、気軽に足を運べるような空気感や雰囲気を作られています。あわせて、地域コミュニティを維持させるためのソフト事業の工夫もなされています。

1 事例調査の目的

将来の公民館における理想の形となる「ありたい姿」は、アンケートやヒアリング、住民との意見交換会から見えてきました。理想像を現実のものにしていくためには、これから求められる拠点の設備・機能・施設環境が理想を叶える手段となります。建物を肌で体感することで具体的な解決手段のイメージの共通認識が図れます。また、建物を見ることがやそで行われているソフト事業を知ることによって知識や建物の常識のアップデートをすることができます。近隣自治体の先進的な取り組みを学ぶため、基本構想策定委員会のメンバー全員で視察を行いました。

2 視察先の選定方法

以下のポイントで施設先を選定しました。

- ・近年建設された新しい施設
- ・庁舎と合築された複合施設
- ・様々な分野の機能を持つ複合施設
- ・住民参画を取り込んだ検討プロセスを行った施設
- ・民間事業者と連携している施設
- ・ソフト事業が充実している施設
- ・既存施設を改修し長寿命化を行い使用している施設
- ・都会の雰囲気を感じることができる施設

3 視察先と日程

令和 6 年 6 月 19 日

兵庫県西脇市 新庁舎・市民交流施設オリナス（庁舎・福祉施設・市民交流スペース・ホール）

兵庫県西脇市 茜が丘複合施設みらいえ（図書館・市民交流センター・子育てプラザなど）

令和 6 年 6 月 21 日

鳥取県智頭町 ちえの森ちづ図書館（建設のプロセス）

鳥取県八頭町 隼 Lab（ビジネスの取り組み）

岡山県西栗倉村 西栗倉村庁舎・あわくら会館・図書館（複合施設）

令和 6 年 6 月 25 日

岡山県真庭市 真庭市中央図書館（既存の建物の利活用）

岡山県高梁市 高梁市図書館（官民連携）

4 事例調査からの示唆

○検討の参考になるポイント

【施設の稼働率と利用の効率化について】

- ・稼働率調査をベースにした部屋の集約化（昼と夜の利用率 UP）と既存施設の利用状況のデータのルール（利用区分、時間区分等）を定めて集め、分析することが必要
- ・施設の規模感の決定や設備機能の必要・不要の根拠として稼働率等のデータは重要である
- ・平日主体、土日主体など利用ピークが違う施設を複合することで、会議室・トイレなどは共用化できる
- ・共用化しやすい設備の配置も調整が必要

【施設の工夫について】

- ・建物の外壁周辺の屋根を伸ばし（雨対策）駐車場のどこからでも軒下に入れるように配慮
- ・駐車場と玄関、施設周りに段差がない（バリアフリー）
- ・入り口を一つにすることで、施設案内場所を機能させる工夫
- ・免震構造がなされている
- ・駐車場は広く多くの来館者を受け入れることが可能
- ・夏・冬の冷暖房の空調が効くように天井を低くした（高い天井は見栄え重視）
- ・後世につないでいける施設づくりの意識
- ・トイレのこだわり①イベントによって男女比を変えられる、②入り口と出口を作り、混雑を避ける設計、③ジェンダーフリー & バリアフリー

- ・建て替え時に場所を移転しているので使用停止期間なく工事している
- ・バリアフリー化を行う。大人のおむつ交換台の設置。
- ・施設の全面ガラス張り、光が入って施設内が明るい
- ・フリースペースの自由に使える机と形の工夫、机の組み合わせで色々な使い方が可能
- ・什器の色、形状など利便性とデザイン性どちらもあるものは良い
- ・予約なしで使用できるフリースペース
- ・児童コーナーに子ども用のトイレ
- ・図書館に設置された特注の木製の本棚がどれも素敵
- ・窓に向かって椅子に座り、外の緑が広々と見えて心が癒される空間
- ・畳スペースがあり、掘りごたつもあって、アットホームな感じがくつろげる空間を演出
- ・緑が見えるほっとする空間
- ・山の地形の立地を利用して、図書館から地下に降りるようになっていて、階段を降りると大きなホールが建設されている
- ・議場は、可動式となっており、普段は会議室の用途で使える。施設内どこでも打ち合わせができるよう、廊下の壁側に机・イスがあり、空きスペースにはホワイトボードも設置
- ・いろんな場所で気軽に会議や話し合いができるスペースがあるのがよい
- ・深い軒が屋根になるテラスは雨の日も様々な活用ができていい
- ・施設内で販売していたドーナツは質が高く、施設特有の特色を持つことは大切（人を惹きつけるきっかけとなる）
- ・1階に飲食店があり、テーブル席だけでなく、子どもが自由に動ける絨毯席もあり、また、外で BBQ もできるなど、若い人たちが楽しく、そしてちょっとおしゃれに食事ができる空間があるといい
- ・カフェスペースには鳥取市から通う常連もいるほどの店舗の強みがある。
- ・集客するなら「食」とそのクオリティーは欠かせない
- ・旧議場をシアター化している、200inch プロジェクター、Wi-Fi 利用の自由度
- ・飲食可能な自由スペースの確保、既存施設をリニューアルする建築方法
- ・蔵書も多く、待ち時間をゆったりと過ごせる場所
- ・デジタルサイネージが広報に大きく役立っていて、そこからイベントに来てくれる人が多い
- ・子どもが自由に来て遊べる居場所、ワークスペースや裸足で過ごせるスペース

【地域住民の声について】

- ・意見を聞いたのに反映されない、フィードバックしないなら聞かないほうが良い場合もある
- ・中学生の思いを反映させて、中学生専用の部屋があるのが良い

- ・施設の内容への合意形成を図るための説明会、ヒアリング等をどこまでするか判断

【複合施設の効果について】

- ・複合施設だからこそ複数の機能がある利点、各種イベントを共同開催することができる
- ・複合施設だからこそ、利用目的が様々な方との交流と施設利用が増えている
- ・来館者がつながりあえる、施設機能の組み合わせが重要
- ・複合化することで小さい子どもから高齢の方までの違う使い方が 1 か所の場所で行われるのは良さそう
- ・小さいころから利用する理由があると場所を使った経験から中高生、大人と成長しても利用イメージがわかりやすい
- ・今までにない新たな価値の創造（年中無休、Wi-Fi 無料、Web 予約、SNS 活用）
- ・民間事業者の進出と事業協同により学生が自慢できる施設となった。市内の雰囲気が変わった

【施設の立地について】

- ・学校の近くだと、学校帰りに立ち寄ることが可能となり、子どもだけの利用が多くなる
- ・学生や親子連れをターゲットにすると来館者が多くなる傾向がある
- ・立地が重要で、人を集める仕掛けやポイントを押さえれば、施設が集える場となる

【メンテナンスの意識について】

- ・利用者の意見を設備に取り入れること。建設後のメンテナンスを考慮すべき（高い窓・空調など）
- ・ランニングコストを削減するための計画

【運営にかかわる方々を増やす取り組みについて】

- ・施設利用応援隊によるボランティア清掃、花植え
- ・みんなでつくる私たちの新しい図書館、ぼくわたしの図書館となるような計画プロセスでの巻き込みと意識づけ
- ・住民の皆さんに支えられ、愛されての今がある

【運営面について】

- ・働く職員の柔軟な対応と施設で行われる様々なソフト事業の充実

施設名:西脇市 新庁舎・市民交流施設オリナス
施設写真

ホールは、劇団四季を見ることができる。駐車場から、雨の日に濡れない工夫。

オリナスホール600人収容・市役所の外観（軒下の屋根）



6

施設名:西脇市 新庁舎・市民交流施設オリナス
施設写真

施設内に飲食スペースは必要？

ロビーにあるカフェ。子どもエリアは床暖房。パーテーションで2部屋にできる。ホワイトボードでお絵かき



8

施設名:西脇市 茜が丘複合施設みらいえ
視察概要

こどもプラザ・男女共同参画センター・図書館・コミュニティセンターが一体となった施設



訪問日	2024年6月19日
施設名	西脇市 茜が丘複合施設みらいえ
運営組織	西脇市
市の状況	人口38,673人（令和2年）、1市1町合併（H17）、面積132.44km2



施設名:西脇市 茜が丘複合施設みらいえ
施設写真

音楽ルーム・茶室・調理室・子どもプラザ

みんなで創る。何でも活動できる空間が備わっていた。



18

施設名:真庭市立図書館
視察概要

小さな子どもと保護者も楽しめる・利用しやすいサービスがたくさんある



4

施設名:高梁市立図書館
視察概要

スターバックスコーヒー・観光案内所の併設



5. 拠点設置の基本的な考え方

5.1 基本方針（コンセプト）

住民アンケートや住民ヒアリング、そして事例調査から求められる公民館の理想と現実を整理しました。あわせて、ターゲット層の日常生活における課題の整理も行いました。この整理を進める中で、施設の使い方のイメージを具体化するために社会教育拠点施設の利用のストーリーを作成しコンセプトを設定しました。（拠点施設の利用のストーリーは、6. 拠点施設の利用イメージ参照）

社会教育拠点施設のコンセプトは、「①行きたくなる場所である」、「②地域の人が応援しあえる場所である」、「③自然と交流が生まれる場である」の3つです。

【社会教育拠点施設の3つのコンセプト】

3つのコンセプトは以下のとおりです。

- （1）行きたくなる場所である。
- （2）地域の人が応援しあえる場所である
- （3）自然と交流が生まれる場である

この3つのコンセプトを叶えることができる環境を整えていくことで、

「住民それぞれに、心の豊かさ、安心と生き生きした暮らし、多様性への共感、そして、互いへのやさしさが生まれる」

そのような空気感のある大山町の状態につなげることができると考えました。

【社会教育拠点施設の3つのコンセプトの具体的な内容について】

3つのコンセプトの具体的な内容は以下のとおりです。

（１）行きたくなる場所である。

1. 困りごとやニーズを満たしてくれる（Wi-Fi、全天候対応、食がある）
2. オープンである（目的がなくてもふらっといける、予約が不要で敷居が低い、自由）
3. 安心である（親切な人がいる、相談できる、どんな人にも親切な機能や配慮がある）
4. アクセスが良い（時間的短さ、快適な移動）

（２）地域の人が応援しあえる場所である

1. 新しくチャレンジしたいこと、再びチャレンジしたいことが見つかる場（自発的な思いを応援）
2. チャレンジしたいことが実践できる場（自由に学ぶ・ビジネス応援・価値を創造 など）
3. 地域活動を促進し、活動しやすい場（住民活動の可能性を育む）
4. 子どもたちが地域の中で育つことを後押しする場（いつでも、どこでも、だれでも）

（３）自然と交流が生まれる場である

1. 各世代の施設（場）の利用が活発になることで自然な世代間交流が生まれる
（施設に来ることで、時を共有し、出会い・つながり・関わり合いが結果としてできる）
2. 多世代の活動に理解が深まり、やさしさが生まれる
（施設で行われていることを体感することで、関心・興味のきっかけを得る）

5.2 基本理念

公民館は、新しい「学びの場」と社会環境の変化に対応した「社会教育の拠点」として次に掲げる機能を果たしていきます。

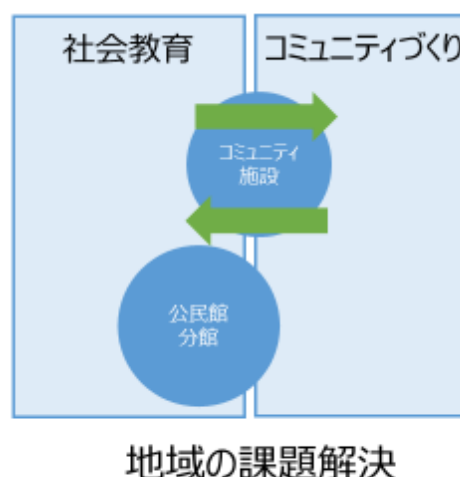
- ・官民パートナーシップにより付加価値を生む機能
- ・地域住民が集いコミュニティづくりを展開していく機能
- ・多様な価値観に対応し社会的包摂に寄与する機能
- ・自己主導型の学びである生涯学習を促進する社会教育の機能

5.3 社会教育拠点施設（公民館・分館）とコミュニティ施設（サテライト拠点）の考え方とこれからの社会教育に求められる形のイメージ

公民館は社会教育の拠点であるが、現在の大山町の状況を鑑みると、コミュニティづくり（まちづくり）の機能も持つ必要がある

※公民館、分館は、教育基本法・社会教育法に基づいた**社会教育を推奨する場の位置づけ**

※コミュニティ施設は、**既存施設の活用が前提**で上記の分館の状態ではないが、**住民活動が行える環境づくりのイメージ**
（例えば、大山町では地域自主組織との連携など）



5.4 拠点設置方針 (新規・既存 具体的なエリア 短期中期長期)

拠点設置の方針について、社会教育拠点基本構想策定委員会では、地区公民館 3 館 + 旧村単位に分散型のサテライト拠点としてのコミュニティ施設（7 ～ 10 館）を基本とする方針をまとめました。補足として、施設整備の財源も考慮し、地区公民館 3 館は、メイン 1 館の建設 + 2 館は既存施設を活用することを今後の検討項目とし、実現可能かどうかを検討していく方針が優先度の高い案としてまとめました。

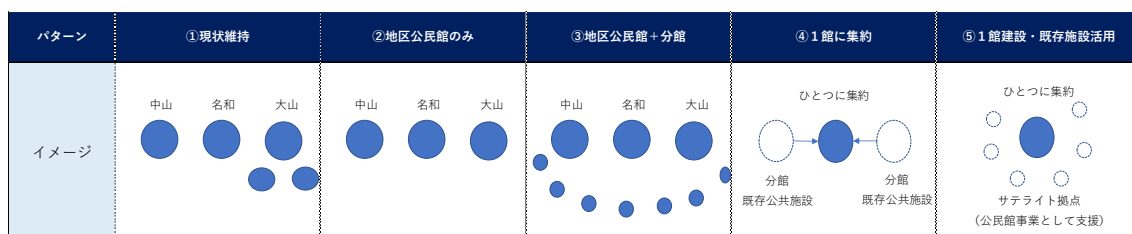
～拠点設置の方針～

- 1 地区公民館 3 館 + 旧村単位に分散型のサテライト拠点としてのコミュニティ施設（7 ～ 10 館）を基本とする
- 2 地区公民館 3 館は、メイン 1 館の建設 + 2 館は既存施設を活用することを今後の検討項目とする

【拠点設置選定の考え方のプロセスについて】

◆事前の検討では、5つのパターンから検討をスタートしました。

- ①現状維持（地区公民館 3 館、分館 2 館）
- ②地区公民館 3 館
- ③地区公民館 3 館 + 分館 10 館
- ④1 館に集約
- ⑤1 館に集約 + 旧村単位に分散型のサテライト拠点としてコミュニティ施設



◆ 3つに絞った根拠

- ①：現状維持（地区公民館 3 館、分館 2 館）

コンセプトにある『地域の人々が応援しあえる場である』の地域活動を促進し、活動しやすい場も重要な要素とすると、現状、中山（1 館）・名和（1 館）・大山（1 館・2 分館）は、中山と名和は大山に比べアクセスの問題と予算面から地域活動にも差がある現状は改善したほうが良い

- ②：地区公民館 3 館

3つすべてのコンセプトを実現可能とするには、大山の分館（高麗地区と大山地区）は、公民館と地域自主組織との連携の好事例であるため、旧町単位の公民館に集約するのは望ましくない

- ③：地区公民館 3 館 + 分館 10 館

地域住民の活動の場が確保される

- ④：1 館に集約

コンセプト『行きたくなる場所である』のアクセスが良い（時間的短さ、快適な移動）を重要な要素とすると、1 館だけではニーズにマッチしない

- ⑤：1 館に集約 + 旧村単位に分散型のサテライト拠点としてコミュニティ施設

地域住民の活動の場が確保される

【3つの案の検討について】

コンセプトに照らし合わせて検討した結果、以下の3つのパターンに絞りました

③ : 地区公民館 3 館 + 分館 10 館

③ + ⑤ : 地区公民館 3 館 + 旧村単位に

分散型のサテライト拠点としてコミュニティ施設（7～10 館）

⑤ : 集約された公民館 1 館 + 旧村単位に

分散型のサテライト拠点としてコミュニティ施設（9～10 館）

**社会教育拠点施設基本構想策定委員会では、
③ + ⑤が、優先度 1 番という案にまとまりました**

※旧村単位をもとにすると、10 地区・10 館となるが、地区公民館と分館（分散型のサテライト拠点としてのコミュニティ施設）が重複するエリアをひとつと考えると 7 館もありうる）

旧村単位のエリア図

◆旧中山町

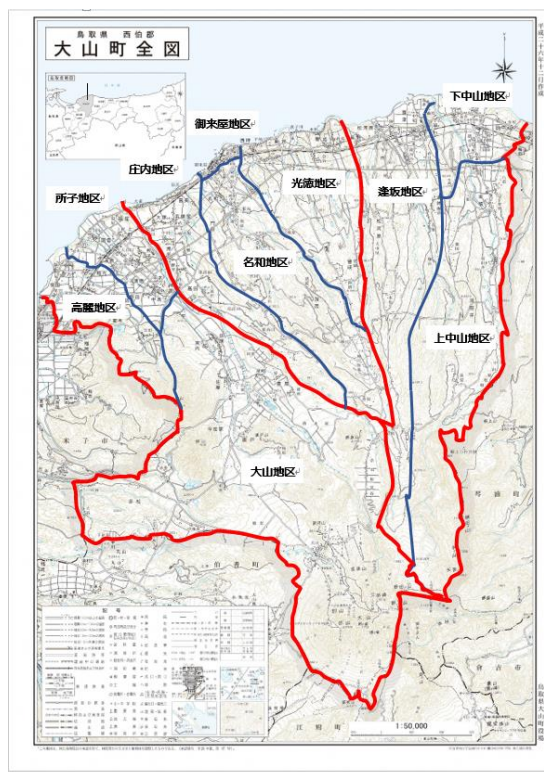
- ・逢坂地区
- ・上中山地区
- ・下中山地区

◆旧名和町

- ・御来屋地区
- ・光徳地区
- ・庄内地区
- ・名和地区

◆旧大山町

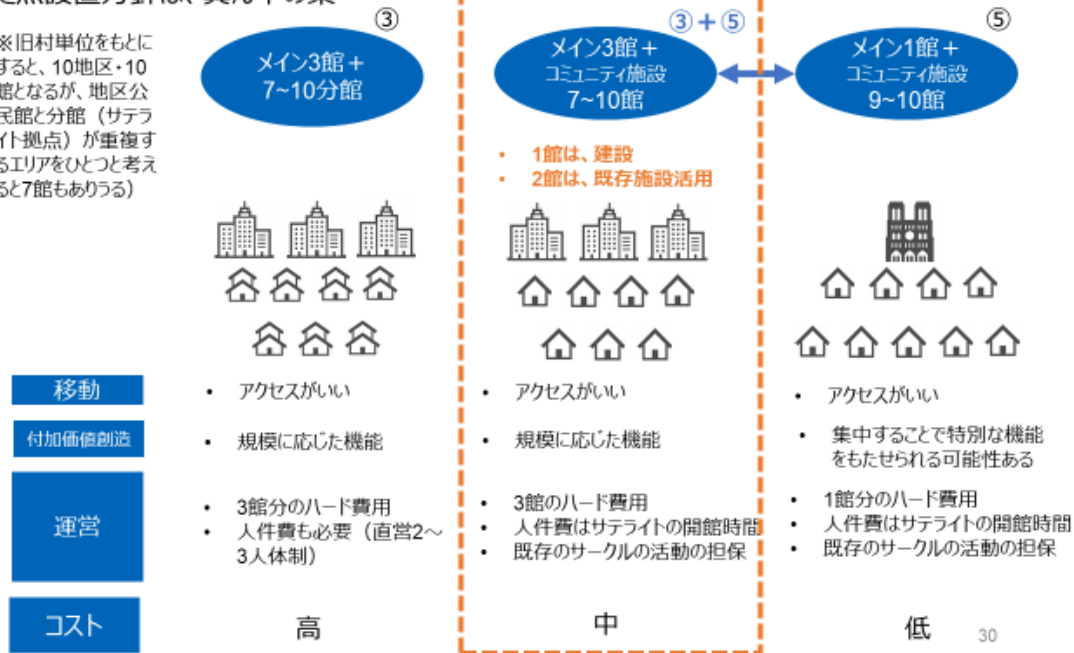
- ・高麗地区
- ・所子地区
- ・大山地区



【拠点設置の方針】

拠点設置方針は、真ん中の案

※旧村単位をもとにする、10地区・10館となるが、地区公民館と分館（サテライト拠点）が重複するエリアをひとつと考えると7館もありうる）



地区公民館 3 館 + 旧村単位に分散型のサテライト拠点としてコミュニティ施設（7 ~ 10 館）の案では、地区公民館 3 館すべてを建設するのではなく、1 館を新築し、2 館は既存の公共施設の活用など、施設間の大小はあってもよいという考え方です。

令和 6 年 11 月に行った住民ヒアリング・意見交換会では、分散型のサテライト拠点としてのコミュニティ施設は公共施設の活用のほか、旧村単位ぐらいが範囲ならば、地域自主組織の範囲と一致するので地域自主組織と連携や協力することも検討してみてはどうかという意見がどの会場からも出ていました。

※参考資料

メイン拠点（公民館）、分館（公民館）、
コミュニティ施設（活動できる場・コミュニティ施設）の違い

施設の種別の説明		長所短所を整理		既存施設の活用が前提			
		メイン拠点 (公民館機能有)		分館 (公民館機能)		コミュニティ施設 (活動できる場)	
							
ハード	付加価値機能 (ビジネス創出)	コワーキング スペースなど	○	なし	×	なし	△
	コミュニティ機能	大きいカフェ フリースペース	◎	カフェ フリースペース	○	喫茶 フリースペース	○
	会議・イベント スペース	広いスペース	◎	中程度 スペース	○	小さい スペース	△
コンテンツ		・自由で様々な価値創造 するコンテンツの企画・実施 ・施設機能に社会教育コン テンツの企画・実施		地域に根差した社会教育 の提供、一般的な社会教育 の実施（収益不可） コミュニティ活動		コミュニティ活動（収益可） 地域に根差した社会教育の提供 一般的な社会教育の実施：研修	
人員体制		・ 現状3名 ・ （館長1・職員2）		・ 現状2名 ・ （館長1・職員1）		・ ??? ・ 地域自主組織は集落支援員1	

互いにフォローしあえる

53

53

5.5 活動団体と具体的な活動拠点の役割、 施設ごとの役割分担

コンセプトを実現するための拠点の役割の基本的な考え方として、付加価値創造やビジネス的要素、特別な設備が必要となる住民活動は、地区公民館あるいはメインとなる建物が役割を担います。特別な設備が必要でない住民活動（サークル活動・地域活動など）、子どもたちや高齢者の集うフリースペースは、旧村単位に拠点を構える分散型のサテライト拠点としてのコミュニティ施設が役割を担うようなイメージが社会教育拠点施設基本構想策定委員会では共通の認識となりました。

【調整が必要な項目について】

（１）分散型のコミュニティ施設の設置案を実行する際に、現在公民館で活動している関係組織への影響についての整理

- ・公民館、分館で活動している団体は、継続して活動できる状況をつくる

例えば、公民館を活用している団体（サークルや単発利用など）、地域自主組織に属している団体、役場各課と関係性のある団体、メンバーが把握している団体、その他の団体

- ・現在のサークル活動で活動しているメンバー数などの人数的な話はポイントとなる、将来の予測も含めて検討する必要がある

例として、書道の団体（自主組織の拠点利用）には、旧村エリアだけでなく町内全体の人が集まる状況がある

事業を提供する範囲の広い公民館、規模の大きな拠点に人が集まる

- ・団体（サークル）数は、高齢化とともに減少する
- ・人口減少、人口推移を意識した検討が必要

（２）拠点ごとの役割分担

- ・地区公民館となるメイン拠点（１館か３館）の役割と、既存の公共施設の役割
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設の役割と持たせる機能、サテライトの言葉の定義づけ
- ・使用する拠点は、公共施設か地域自主組織の拠点か NPO 等の拠点かの決定
- ・メイン拠点にビジネス的な要素があれば、若い世代は新しいことを実施しやすい可能性がある
- ・コンセプトを実現する環境を作るための新築費、修繕費、運営体制、人員体制などの決定
- ・避難所機能の確保

（３）具体的活動の拠点について（（１）にも通じる項目）

- ・老朽化を迎えてない使用できる公共施設のリストアップ
- ・現在の活動団体はどの拠点を使うのか（メイン拠点での活動・サテライト拠点での活用）の調整
- ・拠点設置の方針に基づき、活動団体の想定される使い方を割り振る、ストーリーの周知
- ・活動団体への希望することのヒアリング
- ・サークルの活動によっては、活動の場の変更が必要となる可能性もある
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設の運営において、現在の活動しているサークルへの影響が懸念される
- ・公民館を利用しているサークルがサテライト拠点としてのコミュニティ施設（家の近く）で活動できる
- ・交通の手段の確保、調整

（４）自由な使い方、その他の使い方について

- ・施設に備わる機能は、コンセプトに照らし合わせ、コンセプトの実現に近づける機能を整理して調整する
- ・活動したいが、交通手段に制限のかかる方のための支援
- ・エリアによっては、地域ごとの住民ニーズを基軸として、そのニーズに対応する活動を行うことで拠点到特性を持たせることができ、地域にとって必要な拠点となる

5.6 施設運営、人材面の計画

（プログラムを促進する職員育成・スキルアップ等）

コンセプトを実現するためには、地域間で住民サービスに差が出ないよう町内全域のバランスが取れる運営を行うことが必要です。その実現のためには、拠点の修繕費・運営費・事業費に加え最適な人材配置が必要と考えられます。また、開館時間を地域の状況や実情に合わせて調整するなど地域住民のニーズに合った運営を行うことも考えられます。あわせて、人材面の育成として、社会教育主事の資格を取るための組織体制や施設内外で行う事業の企画立案を行う事業計画研修、来館される方への心からのおもてなしや思いやり、親切な対応を行うための接遇研修など人材育成計画を立て、社会教育とコミュニティの維持につながる活動や住民活動の支援・伴走が行える運営体制を構築する必要があります。

【調整が必要な項目について】

（１）拠点設置の方針を実現するための運営方法と人材体制について

- ・開館、曜日、時間（施設の開閉）の設定
- ・現在の拠点利用の稼働率を踏まえた調整
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設は、開館日・時間が現在の直営の公民館と比較して少なくなると考えられる
- ・管理者の整理、調整
- ・町の施設（サテライト拠点としてのコミュニティ施設の管理に関する事）の管理者の設置、条例・規則の整備
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設は、誰が運営するのかにより体制が変わってくる
- ・施設管理について、拠点の運営にはランニングコストがかかる
- ・人材面についても 20 年後の予測を行うことが必要
- ・何年使うのか、誰が投資するのか、誰の建物なのか等の条件で、規模感の判断につながる
- ・公民館の夜の利用に関して、コストかけているのにも関わらず人が来ない。
例えば、夜はメインとなる拠点に行ってくださいなど、運営体制の調整とルール作り
- ・事業費だけでなく人員の予算も必要
- ・利用料、維持するための経費の整理と調整
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設の運営の内容の決定（開館時間の統一化・利用料金一本化）
- ・公民館とサテライト拠点としてのコミュニティ施設の使用料の整合性の確保
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設に人がいれば、公民館で行っている程度のスペースは貸し出しできる

（２）拠点設置の方針の中でも検討項目としてある拠点の運営が円滑にいくための構成や支援

- ・拠点として使う施設としての既存施設の利用・活用（地域自主組織等）との調整
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設が担っていく部分については、現在活動している自主組織で実施できている地域もある。施設を使う人や事務方との調整が必要となる
- ・サテライト拠点としてのコミュニティ施設では、施設管理者の負担が増える（鍵の管理など）
- ・鍵というモノに頼らずデジタルキー、ナンバーキーの活用も手段としてある

（３）人材育成について（社会教育の展開）

- ・事業の担い手として、社会教育主事の資格取得と事業の企画立案、実施
- ・人材育成は職員だけでなく、地域自主組織、NPO に関わっている方などにもスキルアップ機会を提供
- ・心からのおもてなしや思いやり、親切な対応（ホスピタリティ向上）の取り組み
- ・拠点内外で行うソフト事業の充実のための企画立案、住民活動の応援体制
- ・施設管理だけでなく、大山町の空き家なども含めた様々な拠点（なんでもない場所を集いの拠点に作り変えることも含めて）と、多様な住民が力をつけたり、自信をつけたりする場をコーディネートや伴走支援できる人材の育成
- ・ルールを厳しくせず、問題が起こった時や起こりそうなときに、その都度コンセプトに沿った本来の目的に立ち返ってみんなで解決策を考えて対応できるような仕組みや関わる方々の関係性構築の検討とコーディネートできる人材の育成
- ・自分たちが集う場だからこそ、自分たちで取り仕切る（決定と執行）ことにより、責任と愛着をもって学び、運営できる体制と人材の育成を進めるためのプロセスの検討
- ・直営で行う地区公民館 3 拠点で、「自治（民主主義）を育む」社会教育の場として、「行政が提案し、住民が実行する」のではなく、「住民が発案し、住民が実行し、住民が地域課題を自分ごとにする」ように行政が情報提供や支援、コーディネートを行う学びのオーガナイザーのような人材の育成

（４）拠点設置の方針を実現可能にするための検討

- ・これまでの「あり方」を維持していくことが目的にならないようにすること
- ・既存の公共施設もいずれ老朽化する。中長期の視点を持った検討をすること
- ・今後のスケジュールを立案すること

6. 拠点施設の利用イメージ

6.1 各ターゲット層のストーリー

拠点利用に関して、ターゲット層ごとの拠点施設の利用イメージは以下のとおりです。
住民誰もが自由に気軽に使用できるよう、拠点施設の使い方の理想のイメージをまとめました。

- ①小中学生の利用イメージ
- ②高校生・大学生の利用イメージ
- ③20～50 代の子育て層の利用イメージ
- ④20～50 代の非子育て層の利用イメージ
- ⑤60 代～の利用イメージ
- ⑥拠点運営側の利用イメージ（20～50 代）
- ⑦拠点運営側の利用イメージ（60 代～）
- ⑧付加価値を生み出すストーリー（メイン拠点・全世代）

7. 今後の進め方と留意点

7.1 今後の進め方と留意点

今後の社会教育拠点施設基本計画を策定するにあたり具体的な建設を含めた検討において、今回の社会教育拠点施設基本構想のポイントである「利用者のアクセス面を最大限配慮する必要がある」を重要と考えます。あわせて、**予算上の制約から「地域コミュニティ形成の拠点を1館に集約する」などの事態を避けることを提言します。**

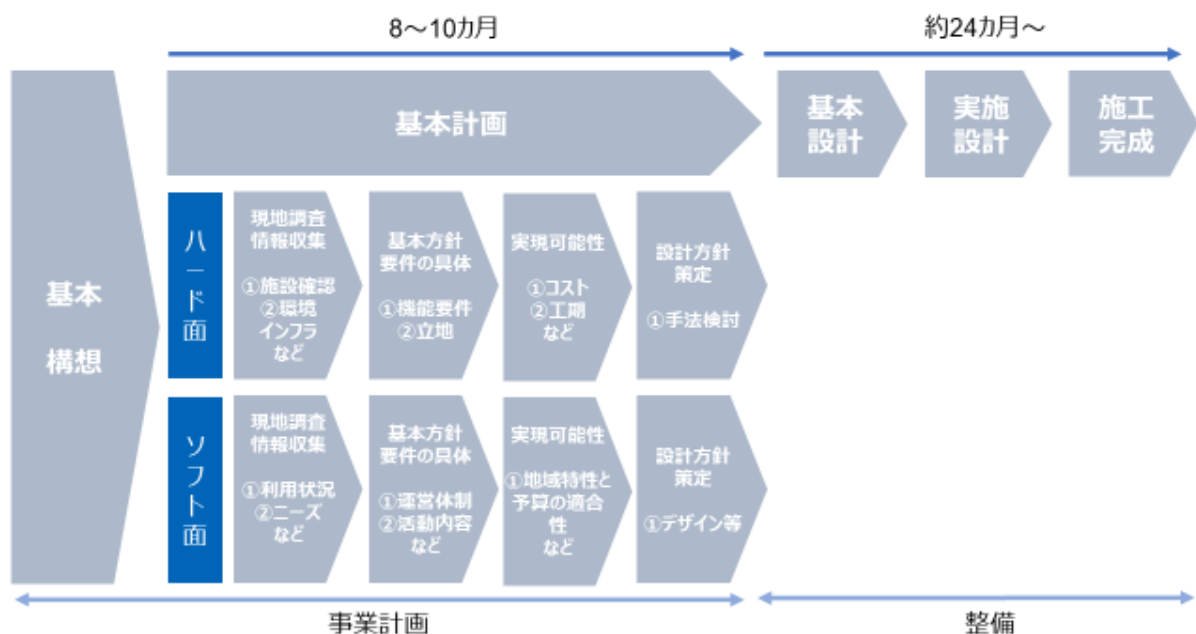
また、あくまで構想ですので、社会教育拠点施設基本構想策定委員会の中では、拠点設置方針のパターンの中で優先順位を付けましたが、社会教育拠点施設基本計画では、さらに検討を進め、よりよくなるよう優先順位を付けた内容について柔軟に対応し、具体的な内容を調整しまとめていきます。

今後のスケジュールと進め方



基本構想を軸に、基本計画をまとめ基本設計・実施設計につなげていきます。

※スケジュールは、検討の内容によって伸びる可能性あり



～検討の経過～

【令和4年度】

3月24日 公民館長意見交換会

【令和5年度】

4月11日 公民館長意見交換会
7月28日 社会教育委員・公民館運営審議会委員意見交換会
9月19日 第1回住民意見交換会（中山地区）
9月21日 第1回住民意見交換会（名和地区）
9月22日 第1回住民意見交換会（大山地区）
12月6日 12月議会 教育民生常任委員会情報共有
1月23日 第2回住民意見交換会（中山地区）
1月24日 第2回住民意見交換会（名和地区）
1月25日 第2回住民意見交換会（大山地区）
1月28日 第2回住民意見交換会（全地区対象）
3月15日 社会教育委員・公民館運営審議会委員情報共有
3月22日 第1回基本構想策定委員会

【令和6年度】

4月4日 第1回基本構想策定委員会ワーキングチーム
4月11日 第2回基本構想策定委員会ワーキングチーム
4月17日 第2回基本構想策定委員会
4月30日 第3回基本構想策定委員会ワーキングチーム
5月1日 第1回役場内部検討チーム会議
5月21日 第4回基本構想策定委員会ワーキングチーム
5月28日 社会教育委員・公民館運営審議会委員情報共有
6月 住民アンケート実施
6月19日 第3回基本構想策定委員会（視察）
6月21日 第3回基本構想策定委員会（視察）
6月25日 第3回基本構想策定委員会（視察）

6月26日 第2回役場内部検討チーム会議
7月 住民ヒアリング実施
7月5日 第5回基本構想策定委員会ワーキングチーム
7月9日 第4回基本構想策定委員会
7月16日 名和中学校ヒアリング（2年生）
7月16日 第6回基本構想策定委員会ワーキングチーム
7月22日 第5回基本構想策定委員会
8月6日 第7回基本構想策定委員会ワーキングチーム
8月20日 第8回基本構想策定委員会ワーキングチーム
8月27日 第6回基本構想策定委員会
9月3日 第9回基本構想策定委員会ワーキングチーム
9月5日 9月議会 教育民生常任委員会情報共有
9月17日 第7回基本構想策定委員会
9月25日 第3回役場内部検討チーム会議
9月26日 第10回基本構想策定委員会ワーキングチーム
10月8日 社会教育委員・公民館運営審議会委員情報共有
10月17日 第8回基本構想策定委員会
10月24日 第11回基本構想策定委員会ワーキングチーム
11月7日 公民館長意見交換会
11月13日 第4回役場内部検討チーム会議
11月14日 公民館職員意見交換会
11月17日 第3回住民意見交換会（大山地区）
11月18日 シン福祉ミーティング情報共有
11月19日 第3回住民意見交換会（名和地区）
11月21日 第3回住民意見交換会（中山地区）
11月21日 社会教育委員・公民館運営審議会委員意見交換会
11月25日 第12回基本構想策定委員会ワーキングチーム
11月28日 第9回基本構想策定委員会
12月13日 大山中学校ヒアリング（3年生）
12月20日 中山中学校ヒアリング（3年生）

社会教育拠点施設（公民館）整備基本構想策定委員名簿

（敬称略）

番号	団体名等	所属・役職	氏名	備考
1	大山町社会教育委員	代表	藪田 佳奈	委員
2	大山町公民館運営審議会委員	代表	森田 健作	委員
3	大山町地域自主組織	代表（大山地区）	磯崎 つばさ	委員
4	大山町地域自主組織	代表（名和地区）	今出 恭子	委員
5	大山町地域自主組織	代表（中山地区）	宮下 侑子	委員
6	大山町公民館	代表（公民館）	杉谷 伸一	委員
7	大山町小中PTA連絡協議会	代表	林田 徹	委員
8	外部専門家	鳥取県生活環境部くらしの安心局犯罪被害者総合サポートセンター所長	澤米 渉	委員
9	外部専門家	とっとり県民活動活性化センター理事長	毛利 葉	委員
10	一般公募	大山町民	辻田 賢次	委員
11	一般公募	大山町民	景山 利子	委員
12	一般公募	大山町民	小林 直哉	委員
13	一般公募	大山町民	杉崎 元哉	委員
14	一般公募（社会人、大学生）	大山町民	権田 結芽	委員